

(案)

羽島市

生涯学習都市づくり5か年計画

令和8年度 ～ 令和12年度

令和8年 月
羽島市

第1章 計画策定にあたって

計画策定の趣旨	1
計画の位置づけ	1
計画の期間	2

第2章 現状と課題

国・県の動向	3
羽島市の現状	5

第3章 基本的な考え方

基本理念	12
基本方針	12
計画の体系	13
計画の全体像	14

第4章 施策の展開

基本方針1 主体的な学びを支える土台作り	16
目標1 学びを支える環境整備	16
目標2 多様な生涯学習機会の提供	18
目標3 幅広い世代へ向けた情報発信	20
基本方針2 地域を支える学びの仕組みづくり	22
目標4 生涯学習団体の支援や資源の保護	22
目標5 連携・協働による学びや活動機会の充実	24
目標6 地域人材の活躍支援	26

第5章 計画の推進

推進体制	28
進行管理	29

資料

用語説明	30
市民の意見公募制度(パブリックコメント制度)	32
生涯学習に関する市民アンケート結果報告書(令和7年6月)	

生涯学習とは

生涯学習とは、一人一人が自らの自由な意思に基づき、ニーズや必要に応じて選択し行う学びを指します。

生涯学習には、人生において行うあらゆる学び、つまり、個々が行う自主的な学習をはじめ、社会教育、家庭教育、学校教育といったすべての学習活動を含みます。

学ぶ場所や機会は、自宅での読書やインターネット等での個人学習、学校での学習、市の施設や民間スクールやスポーツクラブで行う講座や教室と、様々です。

分野は、趣味や健康促進、文化芸術、スポーツ等に加え、防災や福祉といった生活に必要な知識等、多岐にわたります。また、ボランティア活動やイベントへの参加による体験や意識の向上も学びに含まれます。



第1章 計画策定にあたって

計画策定の趣旨

市では、平成27年に「生涯学習都市づくり5か年計画」を策定し、令和2年の改定を経て学習環境の整備や、活動の支援に関する様々な取り組みを進めてきました。

人生100年時代※を迎えた現代社会では、生涯を通じたウェルビーイング※の実現が重要な意義を持つといえます。学びを通じて私たち個人や地域全体が活力と幸福感を得るためには、誰もが分け隔てなく学ぶことができる環境を整えること、学びの成果が地域に還元・循環される仕組みを整えることが必要です。

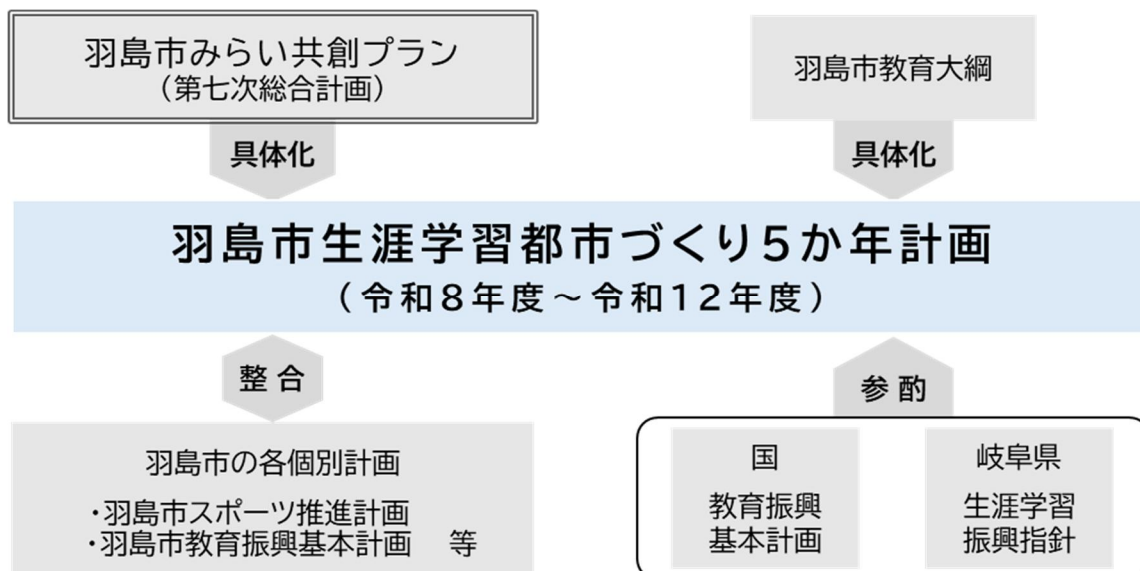
新たな「生涯学習都市づくり5か年計画」では、これまでの取り組みを継承・発展させ、市民ニーズや国・県の動向、社会情勢などを踏まえながら、充実した生涯学習社会※の実現と、学びによる地域の活性化を目指します。

計画の位置づけ

本計画は、市における生涯学習に関する施策や、施策を推進するための方向性を示したものです。

また、本計画は、市の最上位計画である「羽島市みらい共創プラン(羽島市第七次総合計画)※」及び、市の教育や学術、文化振興に関する施策の根本となる方針を定めた「羽島市教育大綱※」における生涯学習分野を具体化するための個別計画であり、国や県の取り組みを参酌し、市の他計画と整合性を図りながら計画を策定しています。

イメージ



計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。なお、期間内でも社会情勢の変化や上位・関連計画等を踏まえ、必要に応じて見直すものとします。

イメージ



第2章 現状と課題

国・県の動向

国の動向

令和5年6月に第4期教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）が策定されました。日本ではグローバル化、気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、地方格差などの様々な社会課題があり、国際情勢も不安定化しています。めまぐるしく変化する社会において、一人一人が社会の創り手となること、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じることが求められています。そこで、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイング※の向上」を2つのコンセプトとし、基本的な方針と教育政策の目標が示されました。

5つの基本的な方針には「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」、「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会※の実現に向けた教育の推進」、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」等が掲げられ、16の教育政策の目標には「生涯学び、活躍できる環境整備」、「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」が含まれています。

岐阜県の動向

令和5年3月に岐阜県生涯学習振興指針（令和5年度～令和9年度）が策定されました。この指針では誰もが自分らしく安心して暮らすことのできる社会の実現のため、必要な時に必要な学びを通じて成長し充実した人生を送ることができるよう、人々の生涯にわたる学びの支援を目指しています。そのために、多様な人々が共に学び、地域理解を深め、学びの成果を実際の活動に生かす「地域づくり型生涯学習」の継続的な推進により、学びと活動の循環による豊かな未来の実現を目指すことがうたわれています。

地域づくり型生涯学習

岐阜県では、個人が生涯学習を通じて身に付けた知識・技術等の学びの成果を地域課題解決のために役立てていく生涯学習のことを「地域づくり型生涯学習」としています。地域づくり型生涯学習の継続的な推進により、学びと活動の循環による豊かな未来の実現を目指しています。

SDGsの推進

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）

平成27年9月に開催された国連サミットにおいて、SDGs（持続可能な開発目標）が採択されました。これは、地球規模の課題を解決し、「誰一人取り残さない」持続可能な世界の実現を目的とし、17の目標と169のターゲットで構成されています。日本では平成28年にSDGs実施指針を策定し、進展する社会や課題に応じ優先課題を見直すなど改定を行いながら、国や自治体、企業や市民生活など幅広い場で取組を推進しています。

17の目標のうち、目標4は「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」とあります。子どもから大人まで年齢問わず誰もが生涯にわたり知識やスキルを習得できる機会を創ることは、SDGsの掲げる様々な目標の達成につながると言えます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



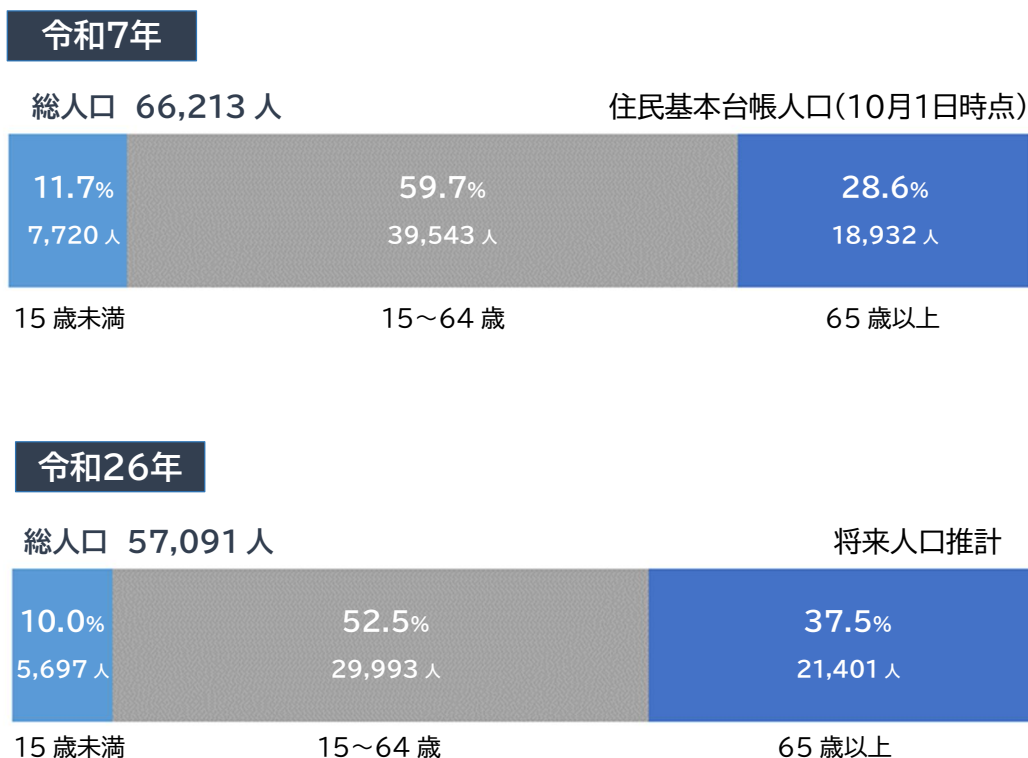
羽島市の現状

人口からみる現状

「羽島市みらい共創プラン(第七次総合計画)」の計画終期にあたる令和26年には、総人口が57,091人まで減少すると見込まれます。年齢別の人口構成は、少子化・高齢化が進み、15歳未満人口の構成割合が10.0%、65歳以上人口の構成割合が37.5%になると推計されています。

人口構成の割合について、令和7年と令和26年の推計を比較すると、15歳未満が1.7%(2,023人)減少、また15歳から64歳の割合も7.2%(9,550人)減少し、65歳以上の割合が8.9%(2,469人)増加しています。

年齢別人口構成の比較



将来人口推計は、羽島市みらい共創プラン(令和7年3月策定)より抜粋。
(コーホート要因法による推計)

地理的環境

羽島市は岐阜県南部に位置し、市域の大半が東の木曽川と西の長良川に挟まれた旧輪中地帯にあります。かつては網の目のように水が流れる低湿地であり、先人たちは洪水の脅威に悩まされながら、一方では水の恵みを受けて生活を営んできました。

現在、市内には平地が広がり、岐阜県では珍しく、山間部をもたない市になります。土地の高低差が極めて少ない地形や、河川によって運ばれた栄養のある土壌により、水田での稲作、蓮田でのレンコン栽培が盛んに行われてきました。

また羽島市は、古くから名古屋方面と京都方面を結ぶ交通の要地であり、鎌倉街道や美濃路などの街道が整備されてきました。近年は、新幹線岐阜羽島駅、名神高速道路岐阜羽島インターの完成により、岐阜県の玄関口としての側面も持ち始めています。

歴史・文化

天正14年の大洪水で、木曽川の流れが変わり、新たにできた木曽川以西が美濃国に編入されました。これが現在の羽島市になります。度重なる洪水に悩まされていたこの地でしたが、宝暦年間の治水工事、明治時代の三川分流工事を経て、豊かな土壌に恵まれた穀倉地帯へと変わっていきました。

市の中心地である竹鼻町は、竹ヶ鼻城の城下町として栄えました。江戸時代には、同町で八劔神社の祭礼が始まり、豪華絢爛な山車が練り歩く竹鼻まつりとして、現在も受け継がれています。また、人が行き交う交通の要所であった羽島市では、古くから繊維産業が根付き、明治時代以降は、繊維産業の一大拠点になりました。

こうして厳しい自然と共存し、他地域と深く関わりながら営んできた暮らしの中で、羽島市の伝統的な文化が育まれ、現在の生涯学習の基盤となっています。

文化財・天然記念物

文化が香る羽島市では、令和7年度末現在、県または市の指定文化財・記念物として計118件の登録があり、市民に親しまれています。

		県指定	市指定	合計
有形文化財		13	67	80
無形文化財		0	1	1
有形民俗文化財		1	3	4
無形民俗文化財		1	1	2
記念物	史跡	9	18	27
	天然記念物	1	3	4
合計		25	93	118



県指定有形民俗文化財
「竹鼻まつりの山車」



県指定天然記念物
「竹鼻別院・フジ」

生涯学習施設

現在、生涯学習の場として様々な施設が活用されています。以下はその一例です。

コミュニティ施設	足近コミュニティセンター	市民文化施設	市民会館
	小熊コミュニティセンター		文化センター・中央公民館
	正木コミュニティセンター	社会教育施設	図書館
	竹鼻コミュニティセンター		竹鼻町屋ギャラリー
	竹鼻南コミュニティセンター		歴史民俗資料館・映画資料館
	福寿コミュニティセンター	スポーツ施設	弓道場
	江吉良コミュニティセンター		柔剣道道場
	堀津コミュニティセンター		運動公園
	上中コミュニティセンター	その他	福祉ふれあい会館
	下中コミュニティセンター		観光交流センター
	はしまコミュニティセンター		山車会館
	桑原コミュニティセンター		
	福寿地域交流センター		

生涯学習に関する市民アンケート結果からみる現状と課題

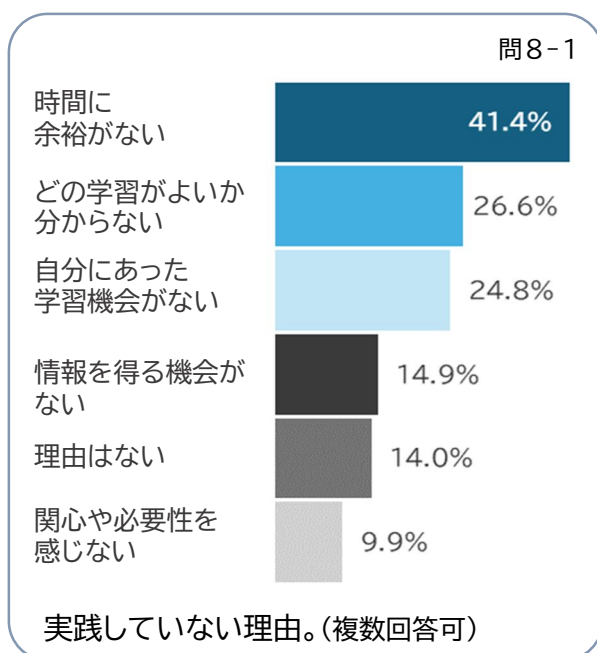
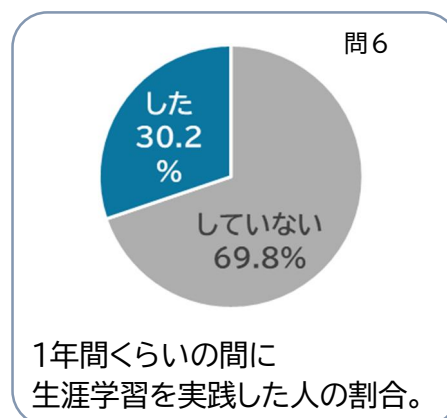
市民の生涯学習に関する意識や実態を把握し、新たな生涯学習都市づくり5か年計画の策定に向けた基礎資料として、また今後の生涯学習の様々な取組の参考とするため、生涯学習に関する市民アンケートを令和7年2月に実施しました。

P8～9ページは、アンケート結果報告書(巻末資料)から抜粋したものです。記載のグラフは回答者全体の割合を示し、回答が少ないカテゴリーは記載を省略しています。

生涯学習を実践していない人は69.8%

実践していない理由を見ると、「時間に余裕がない」が41.4%と最も高くなっています。「どの学習がよいか分からない」26.6%や「自分にあった学習機会がない」24.8%、「情報を得る機会がない」14.9%と続き、自由意見をみると、「生涯学習とは何か分からない」、「若い世代に生涯学習の説明をしてほしい」など生涯学習の理解が広まっていないことがうかがえます。

また、「生涯学習は高齢者のイメージがあり若い世代は参加しにくい。青年～中年世代が参加しやすい講座の開設とともにイメージ戦略が必要」、「生涯学習はあまり興味がなかった。市民の認知度を上げて、興味を引く施策も必要」といった意見があり、幅広い年代に向けた周知と、気軽に取り組める環境づくりが求められています。



課題 ▶ 解決のキーワード

生涯学習の認識を高めるアプローチ

▶ 身近さ・必要性・やりがい

生涯学習に取り組みやすい環境づくり

▶ ライフスタイル・場所・多様性

生涯学習に取り組みたくなるきっかけづくり

▶ 情報発信・体験型・気軽さ

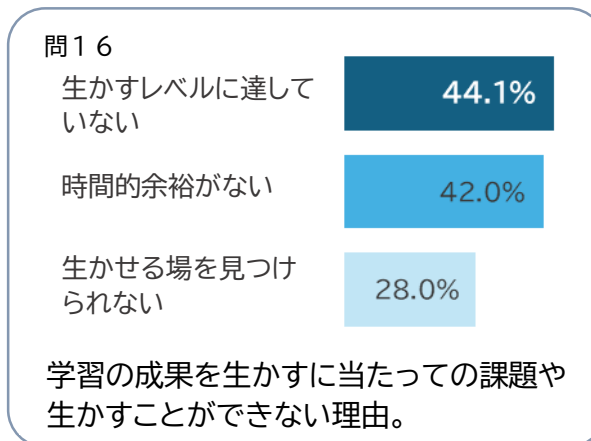
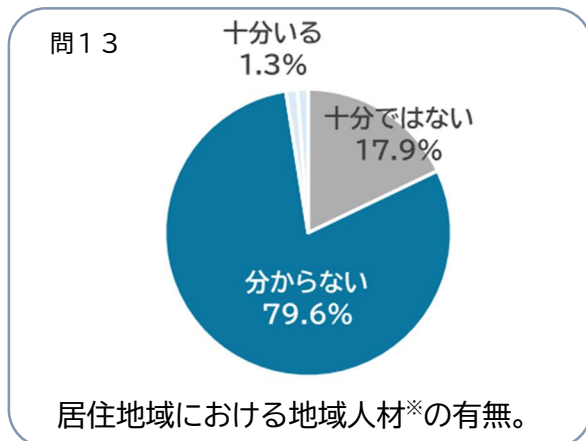
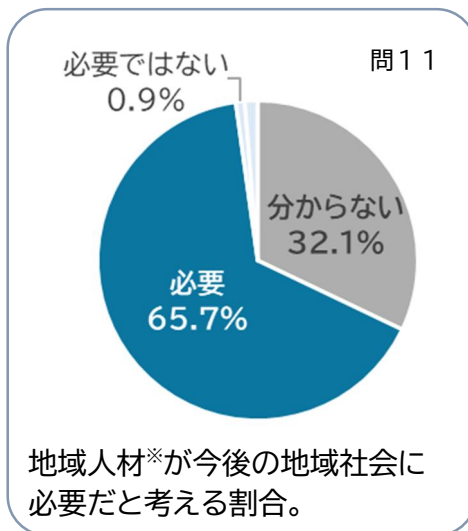
地域人材※が必要と考える人は65.7%

生涯学習を通じて身に付ける知識・技術等は、趣味や健康増進にとどまらず、防災・防犯、子育て支援、青少年育成、高齢者福祉、環境美化、伝統文化の継承など多岐にわたります。

アンケートをみると、学びを経て身に付けた知識や技術を地域社会に還元し、地域課題を解決する地域人材※が「必要である」と回答した人は65.7%と高い割合となっています。

一方、地域に地域課題を解決する地域人材※はいるか、という質問に対して「分からない」という回答が79.6%と最も高く、地域人材※への認識が低いことや、地域で活動する地域人材※の存在が分かりづらくなっていることがうかがえます。

生涯学習の成果を地域社会の中で生かすに当たっての課題や、生かすことができない理由については、「生かすレベルに達していない」と考える割合が44.1%あり、学んだ知識やスキルが実用的な段階ではないと考える人が多いことが分かります。



課題▶解決のキーワード

地域が抱える課題への意識づけ

▶ 情報・きっかけ・自分ごと

個人の学習を生かそうとする意識づくり

▶ 成長実感・成果・地域貢献

意欲ある人を活躍の場につなげる仕組みづくり

▶ 地域連携・実践・スキルアップ

市民アンケート結果からみる現状と計画の方向性

市民アンケート結果	アンケート分析
問 7-3 生涯学習の実施場所 公的機関の講座 34.4%、同好者のグループ活動 27.1%、民間講座 25.0% 問 7-4 生涯学習の実施形態 会場での対面 65.6%、インターネット 36.5% 問 8-1 生涯学習を実践していない理由 時間的余裕がない 41.4%	公的機関が開催する講座は参加のハードルが低く参加しやすいと思われる。 時間的制約がないインターネット活用が広がっており(前回 27.4%⇒今回 36.5%)学習形態の多様化が進んでいる。
問 8-1 生涯学習を実践していない理由 自分にあう学習機会が見つからない 24.8% 問 8-2 今後学習したい・関心のある内容 趣味 46.8%、健康・スポーツ 32.9%、家庭生活に役立つ知識・技術 31.1%、教養 19.4%	幅広く多様なニーズがあると思われる。 自己の知識・教養を深める、健康を向上させるなど、自己実現への関心が高い。
問 4 生涯学習の情報源 広報紙 34.9%、自治会回覧 25.2%、新聞・雑誌・書籍 23.6%、友人 21.1%、SNS※12.6%、ホームページ 9.1% 問 8-1 生涯学習を実践していない理由 情報を得る機会がない 14.9%、理由がない 14.0%、関心がない 9.9%	広報紙が多いが SNS※等デジタルを活用した情報収集の手段もある。多様な手段による学習情報の案内が必要。 既存の情報発信方法では、関心と呼ぶ情報が届いていない層が一定数ある。
問 7-3 生涯学習の実施場所 同好者のグループ活動 27.1% 問 7-5 生涯学習で得られた良さや実感 仲間や友人ができた 30.2%、地域との交流を深めることができた 17.7% 問 14 学習の成果を地域社会で生かす意欲 生かしたいが現在ではできていない 38.7%	グループ活動の活性化により生涯学習を行う人の増加が期待される。 学習を通じて団体に参加することで、地域における活動の広がりが期待される。 生涯学習の成果を地域で生かしたいと考える層は一定数おり、きっかけの一つとして団体活動への参加もある。
問 7-3 生涯学習の実施場所 民間の講座 25.0%、大学等の公開講座 1.0% 問 12 必要な地域人材の分野 防災・防犯 52.2%、高齢者支援 47.8%、子育て支援・障がい者支援・まちづくりは 30%台 健康・スポーツ・文化・環境保全は 20%台	民間の講座への参加が増加傾向となっている(前回 15.2%⇒今回 25.0%)。大学等教育機関を含め、多様な実施主体や協働による学習機会の提供が期待される。 身近な社会課題に関することについては特に高いニーズがある。
問 11 「地域人材」の必要度 必要である 65.7% 問 13 地域課題を解決する地域人材の有無 分からない 79.6% 問 16 学習成果を地域社会で生かす課題 生かすレベルに達していない 44.1%、時間的余裕がない 42.0%、生かせる場がない 28.0%	防災や高齢者支援など様々な分野の地域人材が求められているが、どのような人材がいるか、分かりづらくなっている。 自身が地域で学びの担い手となることに対して、自信がない、時間的余裕がないと感じている消極的な層が多いが、生かせる場がないと考える層もいる。

社会課題	課題と施策	方針 (方向性)	目標
高齢化社会 働き方の多様化 デジタル化の進展	学ぶ場の環境整備と、場所・時間や個々の状況などを問わず学べる(申し込める)柔軟な環境整備が必要。 (1) 生涯学習施設等の整備 (2) 誰もが学べる環境づくり	1 主体的な学びを支える土台作り (ライフステージや社会変化に応じた学びの推進)	1 学びを支える環境整備
若年層、子育て世代の参加率低迷 ニーズの多様性 体験型学習の重視	ニーズや必要に応じた講座の実施、体験から知識を得る機会の充実が必要。 (1) 生涯学習講座の充実 (2) 体験機会の充実		2 多様な学習機会の提供
SNS※の普及 若年層へのリーチ デジタル弱者 社会課題への関心の高まり	若年層や子育て世代の参加意欲に向けた周知など幅広い情報発信が課題。地域課題解決に繋がる情報発信も必要。 (1) 多様な媒体による情報発信 (2) 社会課題の情報発信		3 幅広い世代へ向けた情報発信
地域コミュニティの希薄化 後継者不足 市民活動の多様化 地域資源※の消失リスク	各分野での活動を担う団体の自主的な活動を促し、同じ目的を持つ者同士が学びを深める場として活動を支援することが必要。 (1) 団体の主体的な活動の支援 (2) 地域資源の保護	2 地域を支える学びの仕組みづくり (学びによる地域の活性化に向けたアプローチ)	4 生涯学習団体の支援や資源の保護
地域課題の複雑化 官民連携の推進 企業の社会貢献意識の高まり	多様な実施主体との協働により、様々な分野に対応した活動や交流の場を設け、学習の輪を広げることが必要。 (1) 団体との活動機会の創出 (2) 関係機関との連携による学びの場づくり		5 連携・協働による学びや活動機会の充実
若年層、子育て世代の地域参画意識の低迷 担い手不足 学びの自己完結	地域人材を求める声に応じて人材の可視化が必要。学んだことを生かすことができるよう、人材育成を進め、活動の場を創出する取組が必要。 (1) 地域人材の育成 (2) 成果を発揮する場の創出		6 地域人材の活躍支援

第3章 基本的な考え方

基本理念

生涯学習を通じたウェルビーイング※の実現

人生100年時代※を迎えた今、一人一人が生涯にわたり学び習うこと、学びの成果を地域に分ち伝えることは、日々の暮らしを豊かにし、個人や地域全体の活力と幸福感の向上につながります。

生涯学習社会※を目指し、主体的に学習できる環境の整備や、学習成果を地域社会へ還元・循環できる仕組みの構築が必要です。

そうした背景から基本理念を掲げ、施策・事業を進めていきます。

基本方針

生涯学習都市づくり5か年計画の一層の推進を図るため、二つの基本方針において、施策を展開します。

基本方針1 主体的な学びを支える土台づくり

人が自らの関心や課題に向き合い、学びを通じて日々の暮らしや地域との関わりを深めていくことは、豊かな人生の礎となります。そのためには、年齢や生活環境、社会の変化に応じて誰もが安心して学べる環境と、多様な学びの選択肢が必要です。

基本方針1では生涯学習施設の整備、講座・体験機会の充実、情報発信を通じて学びの多様化を図り、市民の主体的な学びを支える土台を築くことで、持続可能な学習環境の構築を目指します。

基本方針2 地域を支える学びの仕組みづくり

人と人がつながり共感し合い、立場や世代を超えて交流し、学びの成果を地域に還元・循環させることは、地域の課題や可能性に働きかける力になります。こうした学びの循環は、地域の活性化に向けた新たな視点や行動を生み出し、暮らしの中に前向きな変化をもたらします。

基本方針2では生涯学習団体の活動支援、地域資源※の活用、国や企業など異なる主体との連携による学びの場づくり、そして地域人材※の育成と活躍の支援を通じて、学びが地域に根付き循環する仕組みづくりを目指します。

計画の体系

基本理念

生涯学習を通じたウェルビーイング※の実現

基本方針1

主体的な学びを支える土台づくり

方向性

ライフステージや社会変化に応じた学びの推進

目 標

1 学びを支える環境整備

2 多様な学習機会の提供

3 幅広い世代へ向けた
情報発信

施 策

- (1) 生涯学習施設等の整備
- (2) 誰もが学べる環境づくり

- (1) 生涯学習講座の充実
- (2) 体験機会の充実

- (1) 多様な媒体による情報発信
- (2) 社会課題の情報発信

基本方針2

地域を支える学びの仕組みづくり

方向性

学びによる地域の活性化に向けたアプローチ

目 標

4 生涯学習団体の支援や
資源の保護

5 連携・協働による学びや
活動機会の充実

6 地域人材※の活躍支援

施 策

- (1) 団体の主体的な活動の支援
- (2) 地域資源※の保護

- (1) 団体との活動機会の創出
- (2) 関係機関との連携による
学びの場づくり

- (1) 地域人材※の育成
- (2) 成果を発揮する場の創出

計画の全体像

基本方針1 主体的な学びを支える土台づくり

目標	施策	取組	概要
1 学びを支える環境整備	(1)生涯学習施設等の整備	計画的な施設の整備・改修	誰もが快適に使用できる施設を目指して、改修による保全、ニーズや機能向上を踏まえたバリアフリー※化、ユニバーサルデザイン※化を推進します。
		効果的な施設運営の推進	生涯学習施設の効果的な運用を目指して、民間活力の導入を含めた適切な運営を行います。運営事業者との連携・協働を推進し、生涯学習の活性化を図ります。
		施設の活用促進	生涯学習施設の周知や運営方法の工夫など、身近な生涯学習の場として広く活用されるように促します。
	(2)誰もが学べる環境づくり	多様性を踏まえた学びの環境づくり	年齢や性別、障がいの有無、国籍等にかかわらず誰もが学べる環境づくりを進めます。
インターネット等を活用した学習環境づくり		より多くの市民が等しく学習に参加できるよう、ICT※を効果的に活用し、幅広い学習機会を創出します。	
2 多様な学習機会の提供	(1)生涯学習講座の充実	生きがいを育む学習機会の提供	一人一人が興味や関心に合わせて学べる場を提供し、自ら選択して知識の向上を図ることができるよう、学習機会を充実させます。
		生活に必要な知識の提供	身近な課題や将来への不安に対し役立つ具体的な知識を学ぶ機会を提供し、安心して暮らせる基盤づくりを支援します。
		子育てに関する学びの場の提供	妊娠から子育ての過程において役立つ知識を正しく学ぶことができる場を作るとともに、親子の交流を広げる機会とします。
	(2)体験機会の充実	参加型の体験機会の充実	市民が主体的に参加し、体験しながら学べる機会を充実させることで、知識と交流を深める場を提供します。
		知識に触れる機会の提供	知識に触れる場を提供し、市民が豊かな学びを通じて視野を広げる機会を創出します。
3 幅広い世代へ向けた情報発信	(1)多様な媒体による情報発信	各種媒体による情報提供	市民が利用しやすい媒体で情報を受け取ることができるよう、紙面、インターネット、SNS※、動画配信など、複数の異なる媒体を組み合わせる情報提供を行います。
		学習情報の収集と効果的な発信	市関係施設や地域の情報を集約し、紙面を工夫して見やすく伝えることで、生涯学習に関する活動や取組を幅広く発信します。
	(2)社会課題の情報発信	持続可能な未来と地域課題に関する情報発信	市民が自ら地域の課題や、持続可能な社会づくりに目を向け、主体的な行動を促すきっかけとなるよう、多様な情報を発信します。

基本方針2 地域を支える学びの仕組みづくり

目標	施策	取組	概要
4 生涯学習団体の支援や資源の保護	(1)団体の主体的な活動の支援	団体の主体的な活動への協力	地域団体が主体となって実施する事業を支援し、活動の円滑な推進や効果的な実施に向けたサポートを行います。
		団体の円滑な運営に必要な経済的支援	地域団体が意義ある活動を継続・発展できるよう、補助金の交付等、必要な支援を行います。
	(2)地域資源※の保護	資源を次世代へ受け継ぐための保護・啓発・活用	地域の伝統や歴史的価値を持つ文化資源や、地域に息づく環境資源を後世に伝えるため、保護や啓発、学びの場や観光資源等としての活用を推進し、魅力あるまちづくりにつなげます。
5 連携・協働による学びや活動機会の充実	(1)団体との活動機会の創出	団体との協力・連携による活動の推進	地域団体と協力し、イベントの企画・運営を行い、学び・交流の場を創出します。住民の参加を促進し、地域の活性化を図ります。
	(2)関係機関との連携による学びの場づくり	特色ある学びの提供	企業、教育機関、行政等の特色を生かした学びの場を提供します。参加者の意識向上やスキルアップ、実践的な知識の習得を目指します。
		連携による生涯学習活動の充実	多様な主体との連携や協力を得て、生涯学習活動における新たな場の創出や人材不足等の問題を解決します。
6 地域人材※の活躍支援	(1)地域人材※の育成	登録制度による地域人材※の把握	市民の能力を地域に生かし、多様な活動に参画することができるよう、様々な活動分野において登録制度を活用し、地域で活躍する人材を見出します。
		地域で活躍する人材育成と活用	地域社会の発展を支える人材を育成し、その能力を活用する仕組みを構築することで、地域の成長と活性化を目指します。
	(2)成果を発揮する場の創出	成果を生かす機会の提供	学びの成果を実践できる場を提供することで、知識やスキルを更に発展・活用する機会を創出し、地域に学びを広げます。

二つの基本方針において、目標を定めて施策を展開します。目標ごとの取組例などは、第4章 施策の展開において詳しく記載しています。

第4章 施策の展開

基本方針1 主体的な学びを支える土台づくり

方向性 ライフステージや社会変化に応じた学びの推進

目標1 学びを支える環境整備

施策

- (1) 生涯学習施設等の整備
- (2) 誰もが学べる環境づくり

少子高齢化や地域間格差、生活スタイルの多様化が進む中で、誰もが安心して学びにアクセスできる環境づくりが求められています。特に高齢者や子育て世代、障がいのある方など、学びの機会に制約を受けやすい人々への配慮が重要です。



こうした課題に対応するため、本目標では、生涯学習施設の改修や機能強化を進めるとともに、ICT※環境の整備を推進し、学びの場の拡大・充実と利用しやすきの向上を目指します。また、地域の実情に応じた柔軟な運営や、学習支援体制の充実を図ることで、誰もが自分らしく学べる環境を整えていきます。

(1) 生涯学習施設等の整備

取組	概要・取組例
計画的な施設の整備・改修	誰もが快適に使用できる施設を目指して、改修による保全、ニーズや機能向上を踏まえたバリアフリー※化、ユニバーサルデザイン※化を推進します。 ・施設の維持管理 ・機能向上や環境配慮(LED化、洋式トイレ化など)
効果的な施設運営の推進	生涯学習施設の効果的な運用を目指して、民間活力の導入を含めた適切な運営を行います。運営事業者との連携・協働を推進し、生涯学習の活性化を図ります。 ・指定管理制度の活用 ・ネーミングライツによる企業との相互的な宣伝効果
施設の活用促進	生涯学習施設の周知や運営方法の工夫など、身近な生涯学習の場として広く活用されるように促します。 ・ホームページや館内掲示の充実 ・施設の効率的な活用による、学びの場の拡充

(2) 誰もが学べる環境づくり

取組	概要・取組例
多様性を踏まえた学びの環境づくり	年齢や性別、障がいの有無、国籍等にかかわらず誰もが学べる環境づくりを進めます。 ・イベントでの手話通訳、パンフレットの多言語対応等、共生社会※への配慮
インターネット等を活用した学習環境づくり	より多くの市民が等しく学習に参加できるよう、ICT※を効果的に活用し、幅広い学習機会を創出します。 ・電子図書館やYouTubeによるデジタルコンテンツの充実 ・イベントや施設利用のインターネット申し込み

目標指標

指標名	定義	令和6年度 現状値	令和12年度 目標値
施設環境に満足している利用者の割合	文化センター・中央公民館利用者アンケートのうち、管理状況に対し「満足」と回答した利用者の割合	90.8%	95.0%
生涯学習施設の利用回数	文化センター・中央公民館・コミュニティセンターの貸館を利用した回数	11,002回	13,600回
インターネットを活用した学習環境の利用回数	電子図書館、YouTubeチャンネル等、インターネットを介したデジタルコンテンツの利用回数	252,382回 令和5年度値	262,300回
共生社会※に対応したイベントの実施割合	手話通訳や言語等の合理的配慮を行った市主催イベントの実施割合	51.0%	56.0%

目標 2 多様な学習機会の提供

施策

- (1) 生涯学習講座の充実
- (2) 体験機会の充実

人々の価値観や生活スタイルが多様化する中で、学びに求められる内容や学ぶ方法も一人一人異なってきました。興味関心の分野やニーズが幅広くなる半面、時間の制約などもあり、柔軟で選びやすい学びの機会があることは重要です。



こうした課題に対応するため、本目標では、地域の特色や市民のニーズに応じた講座の計画・開催、体験型プログラムの充実による学習機会の提供などに取り組み、誰もが自分に合った学びを見つけられる環境づくりを推進します。また、交流を通じた学びや、趣味・実用・地域課題など多様なテーマを扱うことで、学びがより身近で、暮らしに根付くものとなることを目指します。



講義形式の講座



体験イベント

(1) 生涯学習講座の充実

取組	概要・取組例
生きがいを育む学習機会の提供	一人一人が興味や関心に合わせて学べる場を提供し、自ら選択して知識の向上を図ることができるよう、学習機会を充実させます。 ・趣味や健康になどニーズに合わせた講座の開催 ・多様なテーマの講演会の開催
生活に必要な知識の提供	身近な課題や将来への不安に対し役立つ具体的な知識を学ぶ機会を提供し、安心して暮らせる基盤づくりを支援します。 ・地域密着型の講座(防災、交通安全、空き家等)の開催 ・専門知識を得るための講座の開催
子育てに関する学びの場の提供	妊娠から子育ての過程において役立つ知識を正しく学ぶことができる場を作るとともに、親子の交流を広げる機会とします。 ・妊娠から子育て期を通した教室、親子イベントの開催 ・子育てについて学び合う家庭教育学級の開催 ・キッズウィークにおける親子での活動促進

(2) 体験機会の充実

取組	概要・取組例
参加型の体験機会の充実	市民が主体的に参加し、体験しながら学べる機会を充実させることで、知識と交流を深める場を提供します。 ・多様な体験イベントの開催 ・ワークショップの実施 ・施設の特性を生かした体験イベント
知識に触れる機会の提供	知識に触れる場を提供し、市民が豊かな学びを通じて視野を広げる機会を創出します。 ・施設での展示や展覧会、鑑賞会の開催

目標指標

指標名	定義	令和6年度 現状値	令和12年度 目標
生涯学習講座の実施回数	市が主催した生涯学習講座の実施回数	547回	574回
生涯学習講座の満足度	市主催の生涯学習講座で実施したアンケートのうち「満足」と回答した割合の平均値	94.5%	100%
体験機会の提供回数	市が主催した体験イベントの開催回数	190回	200回
芸術・文化に触れる機会を提供した回数	市が芸術・歴史・文化に関する展示や展覧会を開催した回数	54回	67回



目標3 幅広い世代へ向けた情報発信

施策

- (1) 多様な媒体による情報発信
- (2) 社会課題の情報発信

学びの機会が充実していても、その存在や内容が知られていなければ、参加にはつながりません。若年層や子育て世代、高齢者など、世代ごとに情報の受け



取り方や関心の持ち方が異なる中で、誰もが学びにアクセスしやすくなるような情報発信の工夫が求められています。また、多様性や環境問題など私たちを取り巻く課題が複雑化する現代社会では、課題を自分事として捉えることが必要とされており、そのためにも継続的な情報発信が大切です。

こうした課題に対応するため、本目標では、広報紙や市公式ホームページ、SNS※など多様な媒体を活用した継続的な情報発信に加え、分かりやすく親しみやすい言葉やデザインを用いる工夫、また、学びで得られる効果やメリットが伝わりやすい情報発信により、学びへの関心を高めていきます。

(1) 多様な媒体による情報発信

取組	概要・取組例
各種媒体による情報提供	市民が利用しやすい媒体で情報を受け取ることができるよう、紙面、インターネット、SNS※、動画配信など、複数の異なる媒体を組み合わせることで情報提供を行います。 ・広報紙やチラシ、情報誌などの紙媒体による情報提供 ・ホームページやSNS※などのデジタル媒体※による情報提供 ・行政モニターやデジタルサイネージの活用
学習情報の収集と効果的な発信	市関係施設や地域の情報を集約し、紙面を工夫して見やすく伝えることで、生涯学習に関する活動や取組を幅広く発信します。 ・関係施設と連携した積極的な情報発信 ・冊子やチラシ等におけるレイアウトの工夫

(2) 社会課題の情報発信

取組	概要・取組例
持続可能な未来と地域課題に関する情報発信	市民が自ら地域の課題や、持続可能な社会づくりに目を向け、主体的な行動を促すきっかけとなるよう、多様な情報を発信します。 ・社会課題に関する講演会や大会の開催、ホームページ等への掲載 ・共生社会[※]への理解を促す啓発活動(男女共同参画[※]、多文化等) ・身近な地域課題に関する啓発活動(防災、防犯等)

目標指標

指標名	定義	令和6年度 現状値	令和12年度 目標値
情報誌に掲載した講座やイベント数	生涯学習情報『学びEyeはしま』に掲載した情報数	143件	161件
デジタル媒体 [※] を活用した情報提供数	市公式 YouTube チャンネル、SNS [※] での発信回数	227回 令和5年度値	259回



基本方針 2 地域を支える学びの仕組みづくり

方向性 学びによる地域の活性化に向けたアプローチ

目標 4 生涯学習団体の支援や資源の保護

施策

- (1) 団体の主体的な活動の支援
- (2) 地域資源※の保護

地域には、長年にわたり学びの場を支えてきた生涯学習団体や、地域の歴史・文化・自然などの貴重な資源が数多く存在します。しかし、担い手の高齢化や活動の継続が難しくなる団体もあり、これらの資源が十分に生かされないまま埋もれてしまう懸念もあります。



こうした課題に対応するため、本目標では、地域で活動する生涯学習団体への支援や、地域資源※の継承・活用に向けた取組を展開し、地域に根ざした学びの基盤を守り育てることを推進します。団体の自主性を尊重しながら、活動の継続や世代間のつながりを支える仕組みを整えることで、地域の学びが次世代へと受け継がれていく環境づくりを目指します。

(1) 団体の主体的な活動の支援

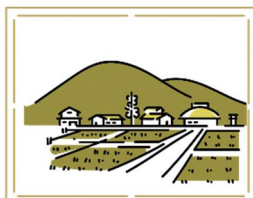
取組	概要 ・ 取組例
団体の主体的な活動への協力	地域団体が主体となって実施する事業を支援し、活動の円滑な推進や効果的な実施に向けたサポートを行います。 ・団体やボランティアの活動支援 ・後援・共催による支援
団体の円滑な運営に必要な経済的支援	地域団体が意義ある活動を継続・発展できるよう、補助金の交付等、必要な支援を行います。 ・文化、青少年、スポーツなど様々な分野の団体支援

(2) 地域資源※の保護

取組	概要・取組例
資源を次世代へ受け継ぐための保護・啓発・活用	地域の伝統や歴史的価値を持つ文化資源や、地域に息づく環境資源を後世に伝えるため、保護や啓発、学びの場や観光資源等としての活用を推進し、魅力あるまちづくりにつなげます。 ・文化財の修繕や保存展示 ・美濃菊※苗の配布等による栽培活動 ・イタセンパラ※の飼育展示 ・観光資源としての活用

目標指標

指標名	定義	令和6年度 現状値	令和12年度 目標値
後援・共催申請の承認数	生涯学習に係る事業に関して後援・共催申請を承認した数	26件	42件
市民活動団体登録数	「羽島市市民活動団体登録制度」に登録し、市公式ホームページで紹介している個人・団体数	18件	36件
地域資源※の保存展示施設数	文化資源、環境資源を保存、展示している公共施設数	8施設	10施設

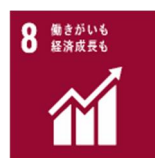


目標5 連携・協働による学びや活動機会の充実

施策

- (1) 団体との活動機会の創出
- (2) 関係機関との連携による学びの場づくり

地域の課題は複雑化・多様化しており、一つの立場や組織だけでは十分に対応しきれない場面も増えています。こうした中で、学びを通じて地域の課題に向き合い、前向きな変化を生み出すためには、市民・団体・企業・教育機関・行政などが立場をこえて協力し合うことが重要です。



こうした課題に対応するため、本目標では、多様な主体との連携や協働による学びの場づくり、活動機会の創出といった施策を展開し、地域の課題解決や活性化につながる学びの循環を推進します。団体の実践的な経験や視点、大学や企業が持つ専門的な知見や技術を活かしながら、共に考え、共に取り組むことで、地域に根差した学びが育まれる環境づくりを目指します。



地域団体の協力による体験活動



団体と連携した啓発活動



公的機関の専門講師による講座

(1) 団体との活動機会の創出

取組	概要・取組例
団体との協力・連携による活動の推進	地域団体と協力し、イベントの企画・運営を行い、学び・交流の場を創出します。住民の参加を促進し、地域の活性化を図ります。 ・教室や講座への団体からの講師派遣 ・子育てイベントやスポーツ等でのボランティア活動 ・団体と共に行う啓発活動

(2) 関係機関との連携による学びの場づくり

取組	概要・取組例
特色ある学びの提供	企業、教育機関、行政等の特色を生かした学びの場を提供します。参加者の意識向上やスキルアップ、実践的な知識の習得を目指します。 ・行政や公的機関等の専門講師を招いた講座や講演会 ・専門分野を持つ団体と実施する体験イベント
連携による生涯学習活動の充実	多様な主体との連携や協力を得て、生涯学習活動における新たな場の創出や人材不足等の問題を解決します。 ・事業への学生ボランティア派遣 ・雑誌スポンサー制度

目標指標

指標名	定義	令和6年度 現状値	令和12年度 目標値
地域人材※の協力による子どもの体験活動件数	園児・児童・生徒が教育活動や放課後子ども教室等において、地域人材※と協働して行った体験活動・取組件数	139件	157件
地域団体と協力して行う活動に満足している参加者の割合	放課後子ども教室に参加した児童のうち、アンケートに「参加してよかった」と回答した割合	92.6%	100%
専門家による学習機会では効果を得られた参加者の割合	はしま学事始、生涯学習推進市民大会等のアンケートにて、意識の向上・スキルアップ・満足感を得たかという問いに「得た」と回答した割合	84.9%	100%
関係機関との連携協定数	企業や大学との連携に係る協定締結数	9件	10件

目標6 地域人材※の活躍支援

施策

- (1) 地域人材※の育成
- (2) 成果を発揮する場の創出

地域には、スポーツなど諸活動の継続的な運営のため指導を担う人、地域文化の継承のため知識を広める人など、それぞれの分野について学びを広げる重要な役割を担う地域人材※が必要です。しかし、高齢化や人口減少などにより指導者や後継者が不足しています。



こうした課題に対応するため、本目標では、様々な分野において人材を見出し育成する仕組みづくりを行います。あわせて、学びの成果を発揮できる場の創出・支援を推進することで、意欲ある人材が地域において活躍し、主体的に活動するための基盤を整えます。人材が育つことで地域に学びが広がり、学びが地域に根付くこと、また、世代や地域を超えた交流が生まれることにより、市全体の活性化を目指します。

(1) 地域人材※の育成

取組	概要・取組例
登録制度による地域人材※の把握	市民の能力を地域に生かし、多様な活動に参画することができるよう、様々な活動分野において登録制度を活用し、地域で活躍する人材を見出します。 ・サポーターや委員の登録(スポーツ、防災、救命、健康等)
地域で活躍する人材育成と活用	地域社会の発展を支える人材を育成し、その能力を活用する仕組みを構築することで、地域の成長と活性化を目指します。 ・人材育成講座(スポーツ、防災、救命、健康等)

(2) 成果を発揮する場の創出

取組	概要・取組例
成果を生かす機会の提供	学びの成果を実践できる場を提供することで、知識やスキルを更に発展・活用する機会を創出し、地域に学びを広げます。 ・登録人材の紹介 ・イベント等への参画(防災訓練、教室、啓発活動)

目標指標

指標名	定義	令和6年度 現状値	令和12年度 目標値
市の地域人材※の登録者数	地域人材※として登録している指導者やサポーターの人数	498人	584人
人材育成を目的とした講座や研修の開催数	登録した人材の育成を目的として開催する養成講座やスキルアップ研修の開催回数	43回	50回



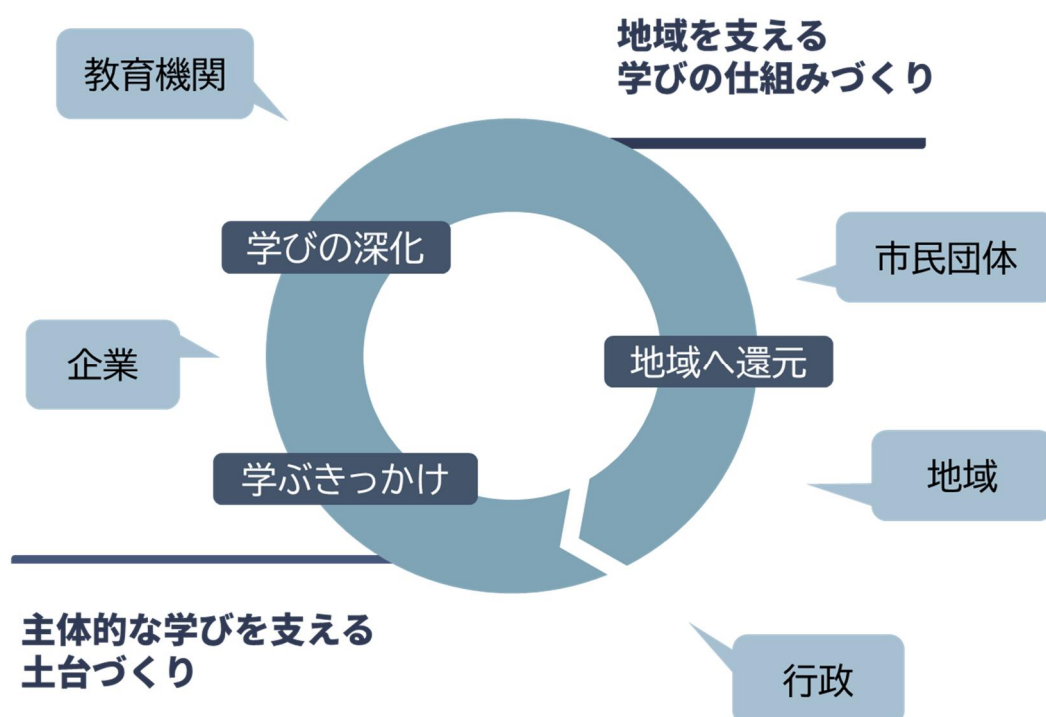
第5章 計画の推進

推進体制

市の生涯学習は、福祉、健康、防災、環境、地域づくり等の多岐にわたる分野と密接に関係しています。本計画を推進するに当たり、庁内の各部署が専門性を生かしながら、横断的に連携する体制を整えます。

加えて、市民・団体・企業・教育機関など、様々な主体との協働を通じて、多様な学びの機会を創出し、誰もが安心して学び続けられる環境づくりを進めていきます。

イメージ



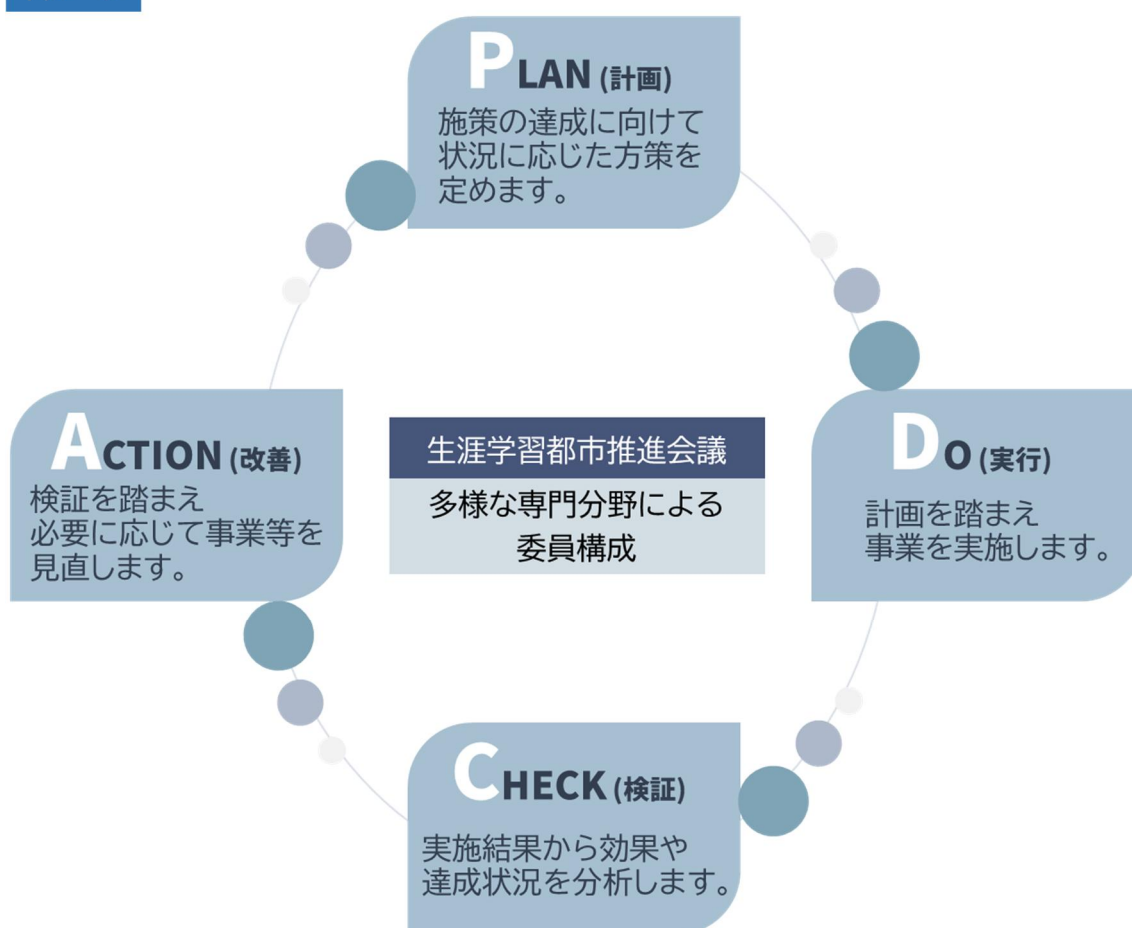
進行管理

本計画に掲げた施策に係る事業は、事業計画(Plan)に基づき実行(Do)し、その効果の検証(Check)を行い、必要に応じて改善(Action)を図る PDCA サイクル※に基づいて行います。

多様な専門分野による外部委員を含めた生涯学習都市推進会議※において、施策の評価・進捗についての確認を行い、施策の改善につなげます。

なお、計画期間中において、社会情勢の変化などにより計画の見直しが必要となった場合には、その都度柔軟に見直しを行います。

イメージ



用語説明（五十音順）

用 語		説 明
ローマ字	I C T	「Information and Communication Technology」の略で、日本語の意味は「情報通信技術」。
	P D C A サイクル	Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検・評価)、Action(改善)を繰り返し、業務を継続的に改善する方法。
	S N S	「Social Networking Service」の略で、インターネット上で交流できる仕組み。
あ行	イタセンパラ	コイ科タナゴ亜科に分類される日本固有の淡水魚。木曽川水系や淀川水系及び富山平野の3箇所に分布するが、それぞれ生息地は限定的で個体数も減少している。国の天然記念物(文化庁・文化財保護法)及び国内希少野生動植物種(環境省・種の保存法)に指定され、環境省のレッドリストで最も絶滅の危険性が高い「絶滅機種 IA 類」に分類されている希少な魚種。
	ウェルビーイング	well(よい)と being(状態)からなる言葉で、「個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念」と定義されている。単に病気でないだけでなく、心身ともに満たされた状態を指す包括的な概念。
か行	共生社会	障がいの有無や人種、性差、性的指向など様々な面の違いを肯定し、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会。
さ行	生涯学習社会	様々な場や機会での生涯学習において、いつでも自由に選択し学ぶことができ、成果が適切に評価される社会。
	人生 100 年時代	ロンドンビジネススクール教授のリンダ・グラットン氏が長寿時代の生き方について述べた著書『LIFE SHIFT(ライフ・シフト)－100年時代の人生戦略』(東洋経済新報社、2016年)の中で提唱した概念。従来のライフプランでは「教育」「仕事」「引退」という3つのステージを基本的な形としていたものを、人生を100年という単位でとらえたとき、この基本が大きく変容する可能性があることを提示した言葉。
た行	男女共同参画	男女がお互いを尊重し合い、職場、学校、家庭、地域等の社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができること。
	地域資源	特定の地域において固有の価値を持つ自然、文化、歴史、産業などの資源のこと。

用語説明（五十音順）

用 語	説 明
地域人材	地域の課題解決や活性化に貢献する人材。生涯学習においては、個人の学習成果やスキルを活用して地域住民の学びや活動を支援する役割を担う人材のこと。
デジタル媒体	デジタル技術を用いて情報を伝達する手段の総称。ウェブサイト、SNS、動画、電子書籍などを含む。
は行	羽島市教育大綱 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3に基づき、本市の実情に応じた教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、市長が教育委員会と総合教育会議において協議した結果を踏まえ、目標や施策の根本となる方針を定めたもの。 羽島市生涯学習都市推進会議 羽島市附属機関設置条例第2条に基づいて設置され、生涯学習都市推進構想の策定、生涯学習施策に関する調査審議を行う組織。 羽島市みらい共創プラン（羽島市第七次総合計画） 市民や企業、団体等の多様な主体との協働や自治体との効果的な連携により、多様化・複雑化する課題に的確に対応し、誰もが住みよいまちを目指して策定された羽島市の総合計画。基本構想は、長期的な視点から目指すまちの姿を定めるとともに、その実現に向けて展開する施策の大綱を示しており、計画期間は令和7年度から令和26年度までの20年間としている。実施計画は、基本構想に定める目指すまちの姿を実現するための施策・事業について、目標指標を設定し体系別に示したものであり、計画期間は、1期当たり4年間としている。 バリアフリー 身体機能や移動に困難を抱える人々が、安全かつ快適に利用できるよう、物理的・制度的な障壁を取り除くための設計や取り組みを指す。
ま行	美濃菊 優雅に人がる大輪と珍しい丸花卉を持つ菊。約200年前、羽島市北部に自生していた中輪型の野生菊を、先人たちの手により改良したもの。羽島市の市花に指定され、毎年秋に羽島美濃菊展を開催している。
や行	ユニバーサルデザイン 空間作りや商品のデザイン等に関し、誰もが利用しやすいデザインを初めから取り入れておこうとする考え方。

市民の意見公募制度(パブリックコメント制度)

次期生涯学習都市づくり5か年計画について、市民の意見公募制度のもと募集したところ、〇件のご意見をいただきました。

募集期間

令和7年11月25日(火曜日)から令和7年12月25日(木曜日)まで

公表場所

羽島市役所3階生涯学習課、各コミュニティセンター窓口

募集の結果

生涯学習に関する市民アンケート 結果報告書

令和 7 年（2025）6月
羽 島 市

目 次

調査概要	1
調査について	2
回答者の属性（問1、問2）	4
調査結果	5
あなたの生涯学習について	6
問3 「生涯学習」のイメージ	6
前回調査との比較	7
問4 生涯学習の情報源	8
問5 最も求める生涯学習情報	9
問6 生涯学習の実施有無	10
問7 - 1 生涯学習の実施内容	11
問7 - 2 生涯学習の実施理由	12
前回調査との比較	13
問7 - 3 生涯学習の実施場所	14
問7 - 4 生涯学習の実施形態	15
前回調査・全国調査との比較	16
問7 - 5 生涯学習を行うことで得られた良さや実感	17
問8 - 1 生涯学習を行っていない理由	18
前回調査・全国調査との比較	19
問8 - 2 今後学習したい・関心のある内容	20
問9 学習がしやすい時間帯	21
地域づくり型生涯学習について	22
問10 「地域づくり型生涯学習」の認知度・参考	22
問11 「地域人材」の必要度	23
問12 必要な地域人材の分野	24
問13 地域課題を解決する地域人材の有無	25
問14 生涯学習の成果を地域社会で生かす意欲	26
参考	27
問15 生涯学習の成果を地域社会で生かす具体例	28
問16 生涯学習の成果を地域社会で生かす際の課題や困難	29
自由意見	31



調査概要

調査について

(1) 調査目的

市では「羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画」を策定し、生涯学習に関する各施策を推進しています。本調査は、市民の生涯学習に関する意識や実態を把握するとともに、市民から広くご意見等をお伺いし、本計画の発展・充実に図るための基礎資料として活用するために実施しました。

(2) 調査項目

具体的な調査項目については、巻末資料の「アンケート調査票」をご参照ください。

本調査には以下に示す項目が含まれています。

あなたの生涯学習について

地域づくり型生涯学習について

(3) 調査設計

調査地域 羽島市全域

調査対象 市内に居住する満18歳以上の男女

標本数 1,000人

抽出方法 無作為抽出法(年代・性別による層化抽出)

調査期間 令和7年2月10日(月)～令和7年3月10日(月)

調査方法 配布:郵送

回収:郵送又はインターネット

(4) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
男 性	490	135	27.5%
女 性	510	179	35.0%
その他		4	
合 計	1,000	318	31.8%

小数点第2位以下切り捨て

調査について

(5) 報告書の見方

集計について

本報告書は、設問ごとに「全体(単純集計)及び性別」を、単一回答の設問には「年齢別」も含めた集計結果を記載しています。また、設問によっては、他調査との比較や参考の掲載を行っています。

比較、参考に利用した調査名は次のとおりです。

- ・羽島市 生涯学習に関する市民意識調査 調査結果報告書(郵送) 令和元年度実施
- ・文部科学省 生涯学習に関する世論調査 令和4年度実施

グラフ中の「N」について

Number of Cases の略。各設問に該当する回答者総数を表します。

グラフ中の「%」について

「%」は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合(あてはまるものすべてに○をつけるなど)は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

設問文及び選択肢の記載について

本報告書中の設問文及び表やグラフ等の見出し、文章中での選択肢は、本来の意味を損なわない程度に変更または省略して掲載している場合があります。

分析について

人数が極めて少ないカテゴリー層については、誤差が大きくなると考えられるため、分析から除外している場合があります。単一回答の設問に対して複数回答があった場合は、平均値に数値化しデータセットに含んでいます。

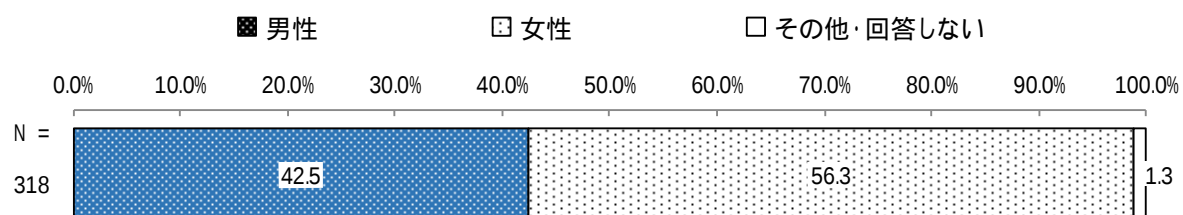
「その他」の回答について

選択肢「その他」でのご意見は回答を抜粋し、意味を損なわない程度に変更または省略して掲載しています。また、選択肢「その他」でのご意見が既存の選択肢に該当すると判断された場合、回答数は該当する選択肢に含んでいます。

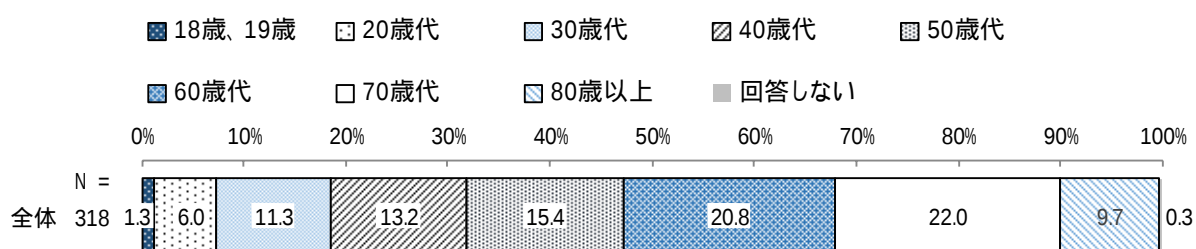
回答者の属性

「性別」「年代」は以下のとおりです。

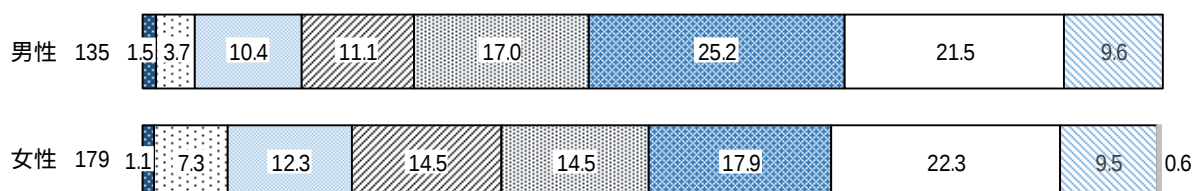
問 1 あなたの性別は、次のどれに当てはまりますか。（回答は一つ）



問 2 あなたの年齢は、次のどれに当てはまりますか。（回答は一つ）



【性別】





調査結果

あなたの生涯学習について

▶「生涯学習」のイメージ

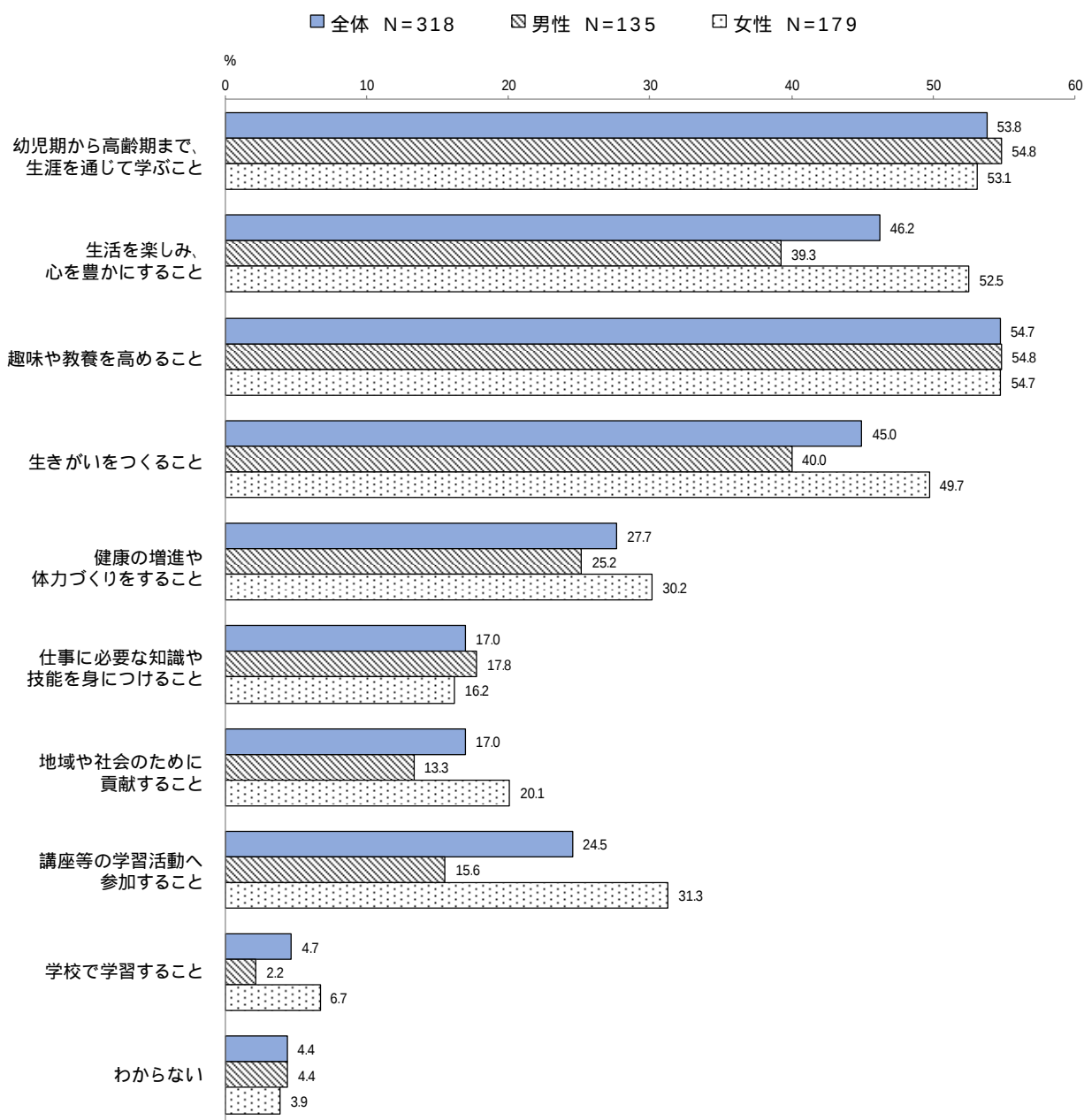
問 3 あなたは「生涯学習」という言葉からどんなことを思い浮かべますか。（複数回答可）

趣味や教養を高めること
54.7%

幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと
53.8%

生活を楽しむ、心を豊かにすること
46.2%

全体、性別ともに「趣味や教養を高めること」が最も高く、次いで「幼少期から高齢期まで生涯を通じて学ぶこと」、が高くなっています。一方、「仕事に必要な知識や技能を身に着けること」や「地域や社会のために貢献すること」はどちらも全体で17.0%と低くなっています。



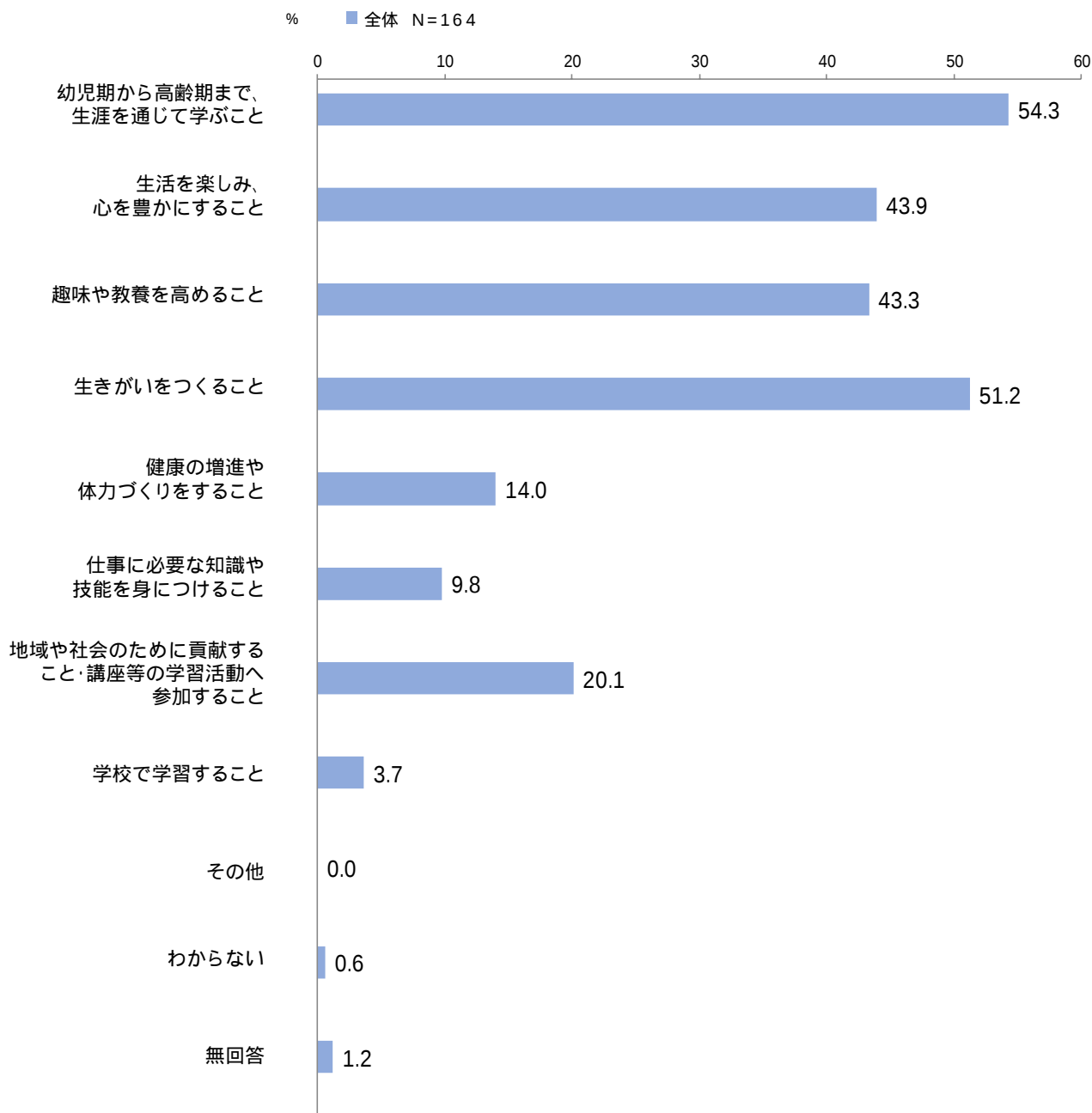
前回調査との比較

▶「生涯学習」のイメージ

前回調査

あなたは「生涯学習」という言葉にどのようなイメージを持っていますか。(複数回答可)

前回と今回の調査を比較すると、全体の回答割合は「趣味や教養を高めること」が11.4%増加、「健康の増進や体力づくりをすること」が13.7%増加となりました。一方、「生きがいをつくること」は6.2%の減少となりました。



羽島市 生涯学習に関する市民意識調査 調査結果報告書

令和元年7月実施

あなたの生涯学習について

▶ 生涯学習の情報源

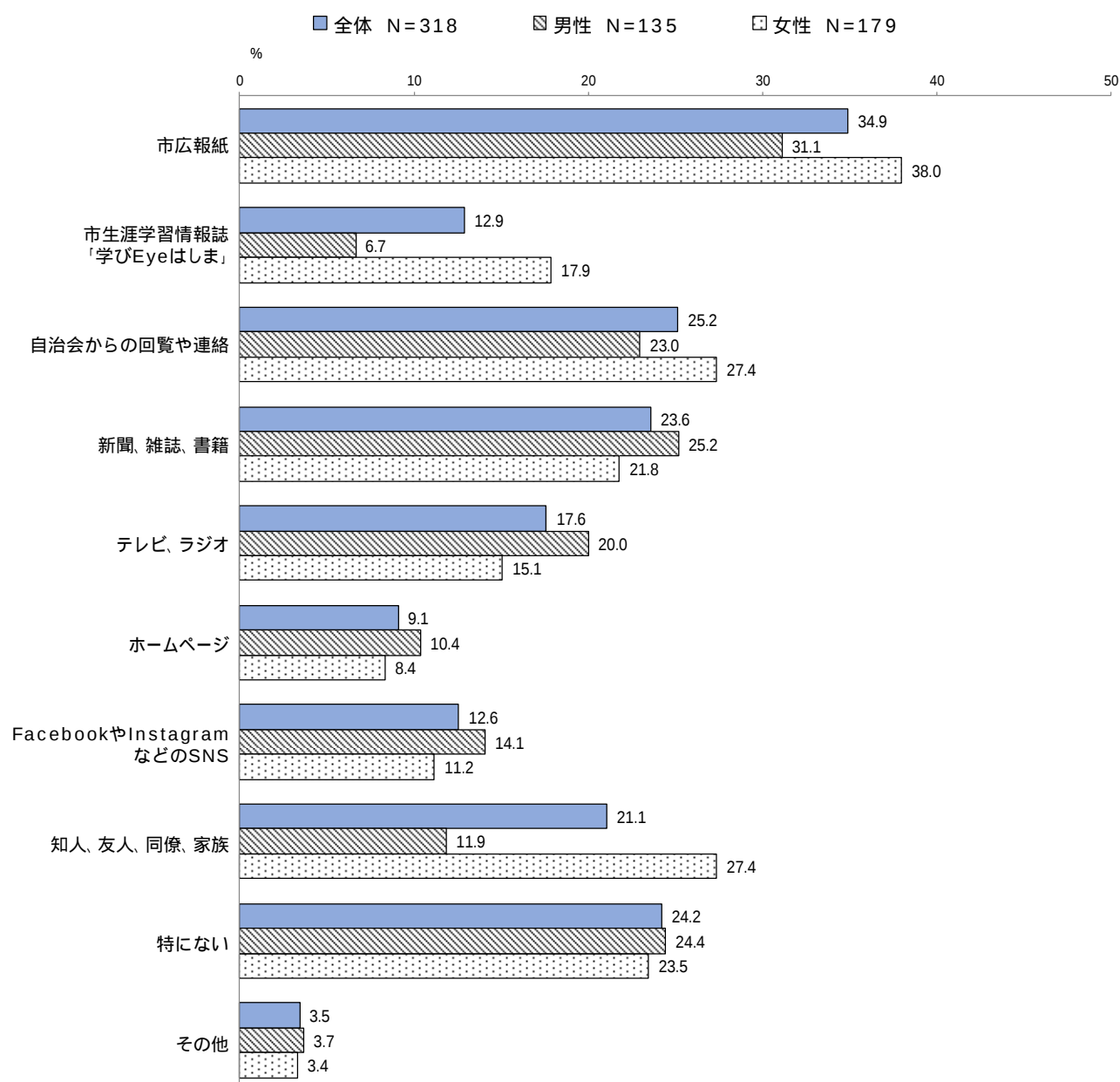
問 4 あなたは生涯学習の情報をどこから得ていますか。（複数回答可）

市広報紙
34.9%

自治会からの回覧や連絡
25.2%

特にない
24.2%

全体、性別ともに「市広報紙」が最も高くなっています。次いで全体では「自治会からの回覧や連絡」「新聞、雑誌、書籍」が高くなっており、「特にない」と回答した割合が20%台となっています。「知人、友人、同僚、家族」では、男性が11.9%に対し女性が27.4%と回答した割合に大きな差が出ています。



【その他の回答】 動画、インターネット、大学等、パソコン教室、コミュニティセンター、寺院、生活環境

あなたの生涯学習について

▶ 最も求める生涯学習情報

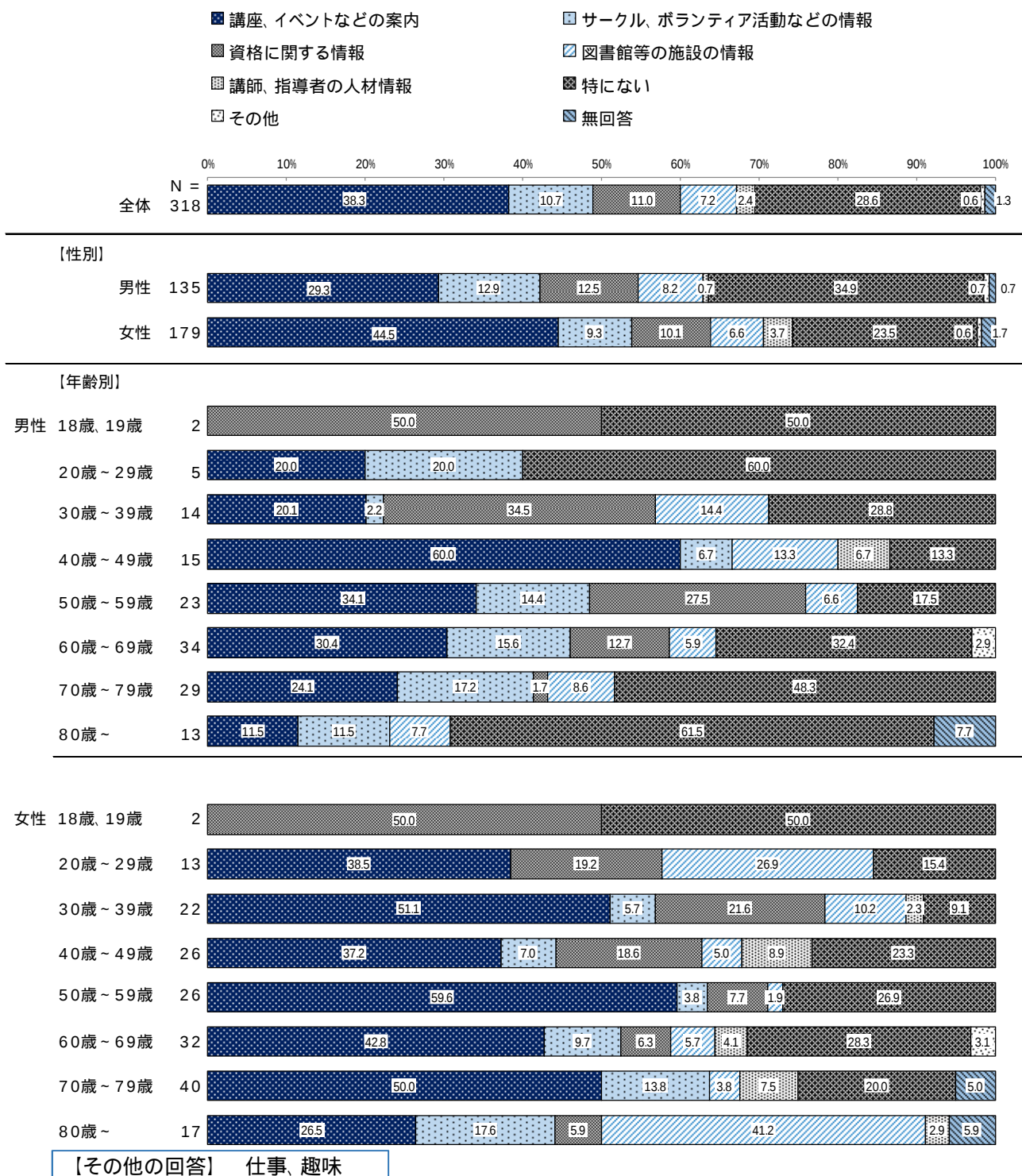
問 5 現在どのような情報が最も欲しいですか。（回答は1つ）

講座、イベントなどの案内
38.3%

特にない
28.6%

資格に関する情報
11.0%

全体でみると「講座、イベントなどの案内」が最も高く、次いで「特にない」となっています。「資格に関する情報」は全体で見ると11.0%と低いですが、性別・年代別で見ると男性の10代・30代・50代や女性の10代・20代・30代・40代などに割合の高まりが見えます。



あなたの生涯学習について

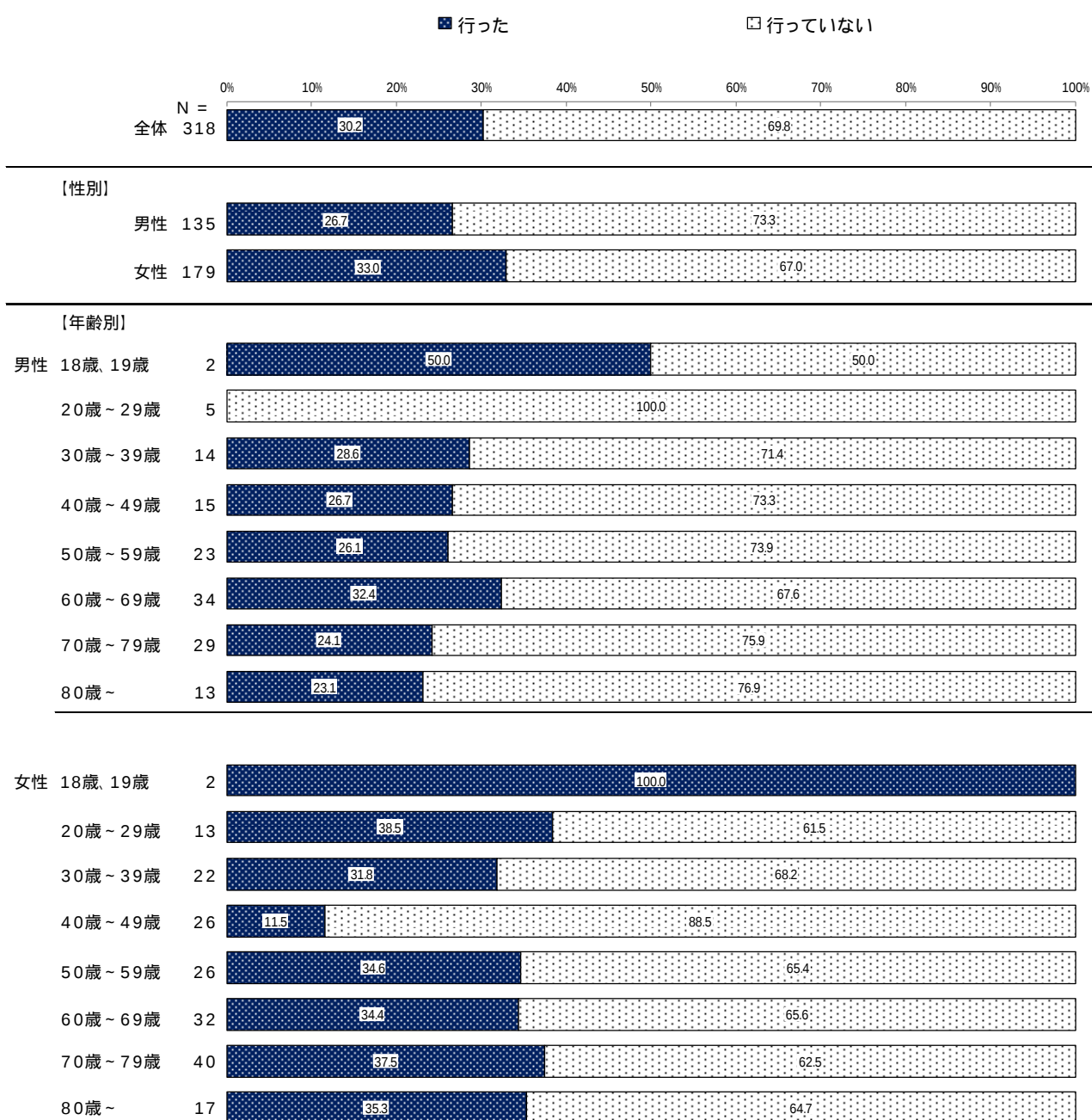
▶ 生涯学習の実施有無

問 6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたか。（回答は1つ）

行っていない
69.8%

行った
30.2%

全体でみると「行っていない」は69.8%と回答の半数以上を占めています。「行った」の割合を性別でみると、女性33.0%が男性26.7%をわずかに上回りますが、どちらも低い割合となっています。「行った」の割合を性別・年齢別で見ると、男性20代は0%、女性40代は11.5%となっており、他の年代と比べ著しく低い傾向にあります。



あなたの生涯学習について

▶ 生涯学習の実施内容

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「行った」と回答

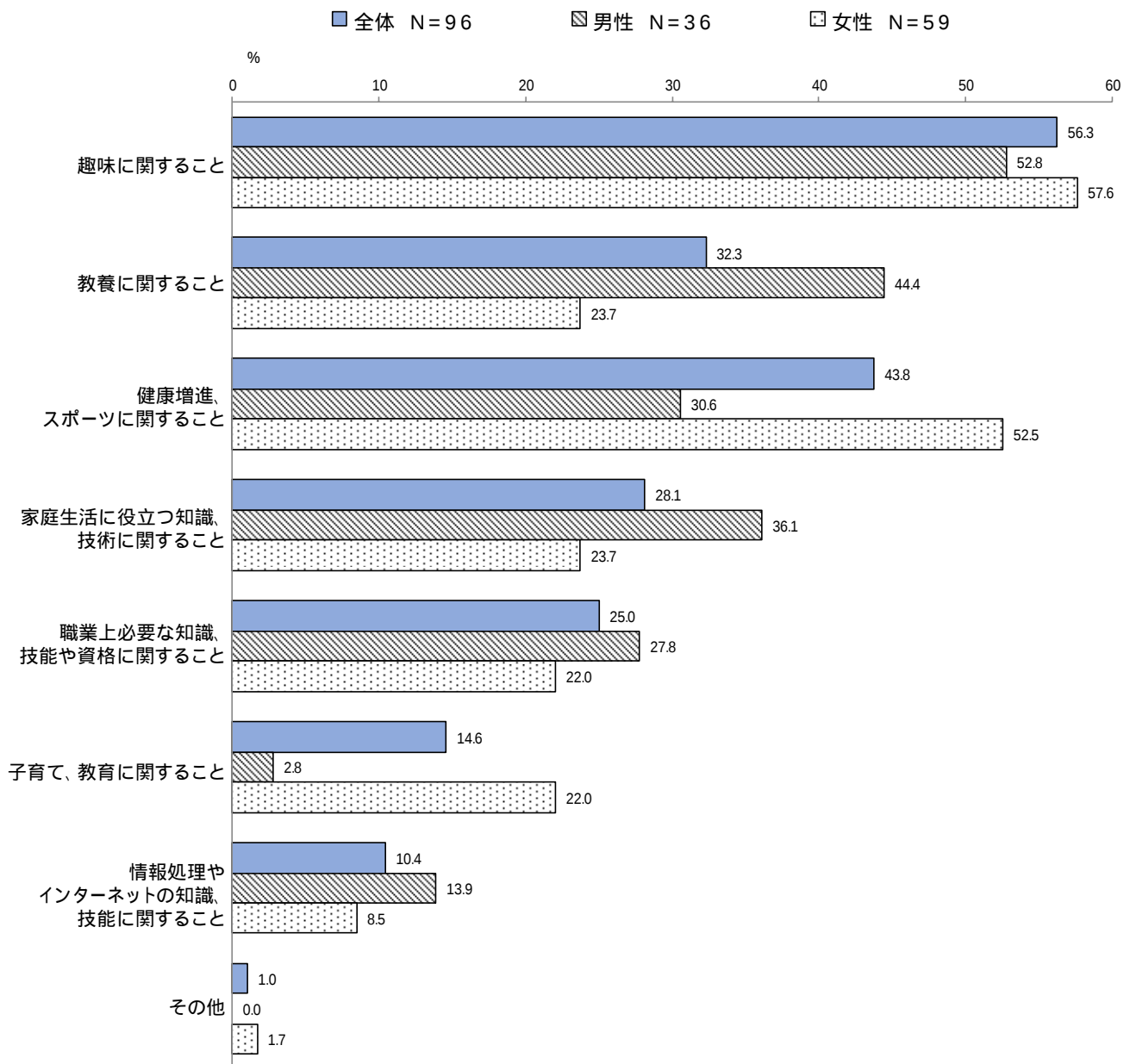
問7-1 あなたはこの1年間くらいの間にどのような生涯学習を行いましたか。（複数回答可）

趣味に関すること
56.3%

健康増進、スポーツに関すること
43.8%

教養に関すること
32.3%

全体、性別ともに「趣味に関すること」が最も高くなっています。次いで、男性は「教養に関すること」44.4%、「家庭生活に役立つ知識、技術に関すること」36.1%が高く、女性は「健康増進、スポーツに関すること」52.5%、「教養に関すること」および「家庭生活に役立つ知識、技術に関すること」23.7%が高くなる傾向にあります。



【その他の回答】 コミュニティ活動

あなたの生涯学習について

▶ 生涯学習の実施理由

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「行った」と回答

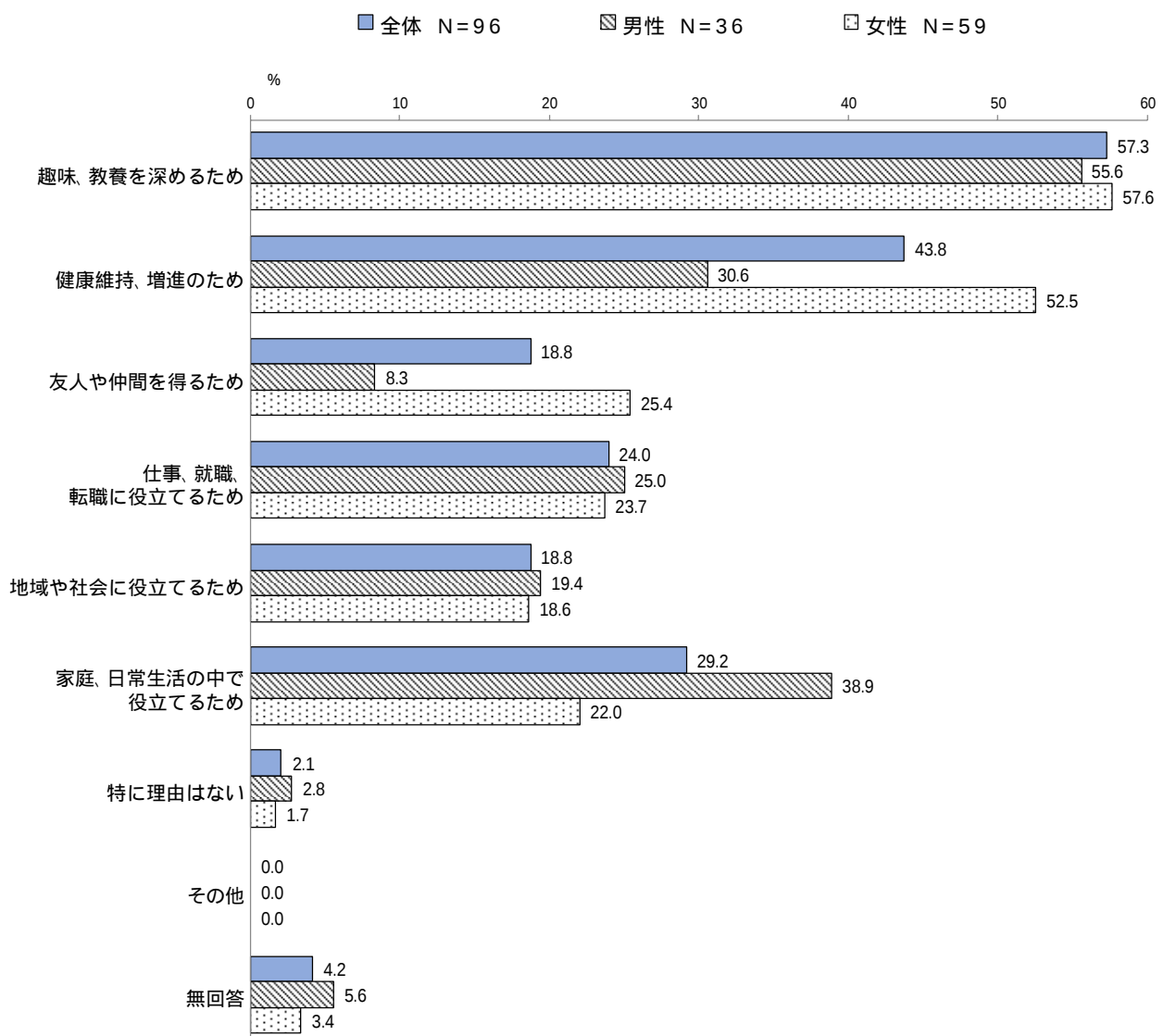
問7-2 問7-1の学習を行った理由は何ですか。（複数回答可）

趣味、教養を深めるため
57.3%

健康維持、増進のため
43.8%

家庭、日常生活の中で役立てるため
29.2%

全体、性別ともに「趣味、教養を深めるため」が最も高くなっています。次いで男性は「家庭、日常生活の中で役立てるため」38.9%、「健康維持、増進のため」30.6%が高く、女性は「健康維持、増進のため」52.5%、「友人や仲間を得るため」25.4%が高くなる傾向にあります。



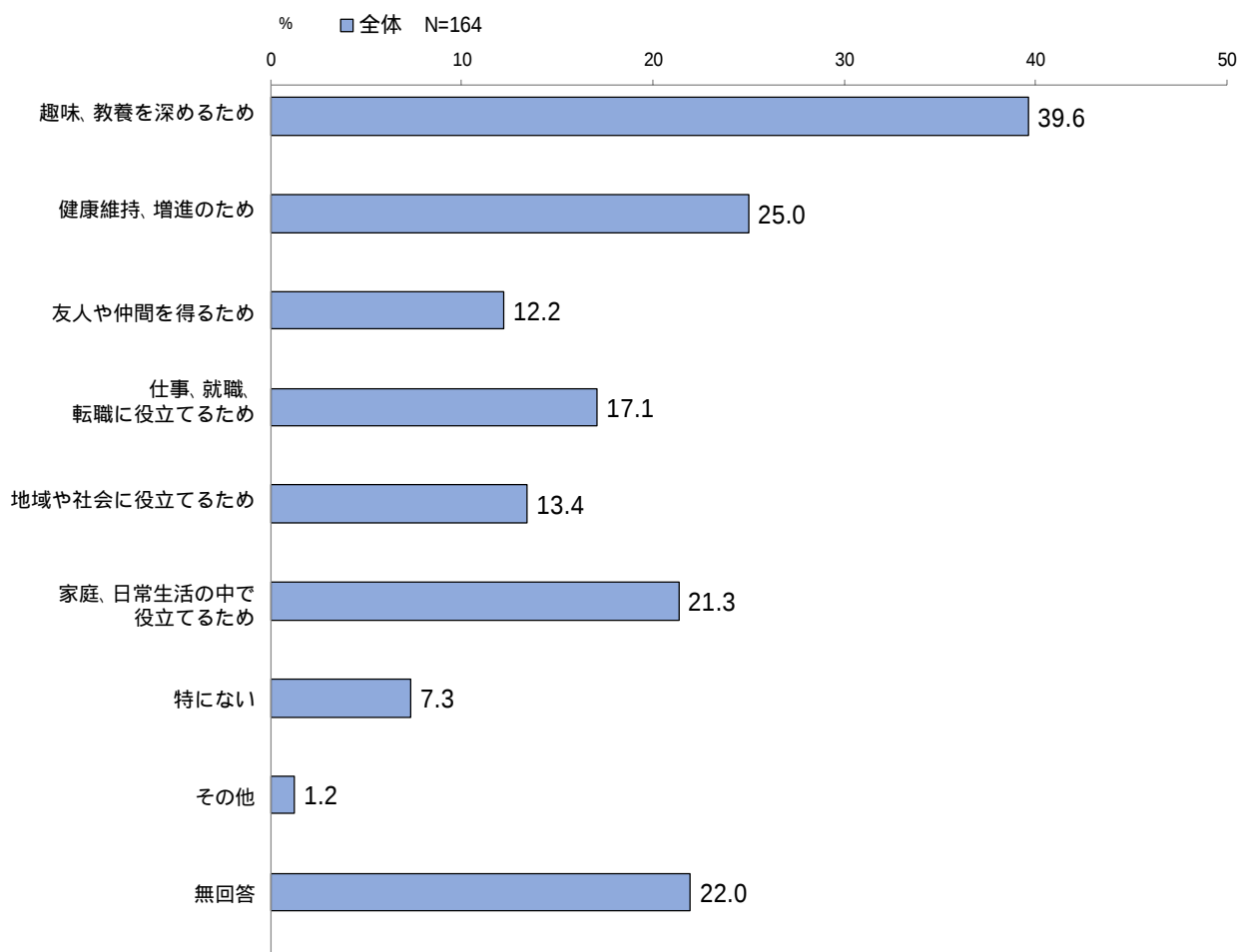
前回調査との比較

▶ 生涯学習の実施理由

前回調査

あなたが過去1年間に活動を行った理由は何ですか。
また、これから行うとしたら何を理由に行いますか。(複数回答可)

前回と今回の調査を比較すると、全体の回答割合は「趣味や教養を高めること」が17.7%増加、「健康維持、増進のため」が18.8%増加、「友人や仲間を得るため」が6.6%増加、「家庭、日常生活の中で役立てるため」が7.9%増加と、ほとんどの項目で割合が増加しました。



羽島市 生涯学習に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和元年7月実施

あなたの生涯学習について

▶ 生涯学習の実施場所

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「行った」と回答

問7-3 問7-1の学習はどのような場で行いましたか。（複数回答可）

公的機関(市主催等)の講座、教室

34.4%

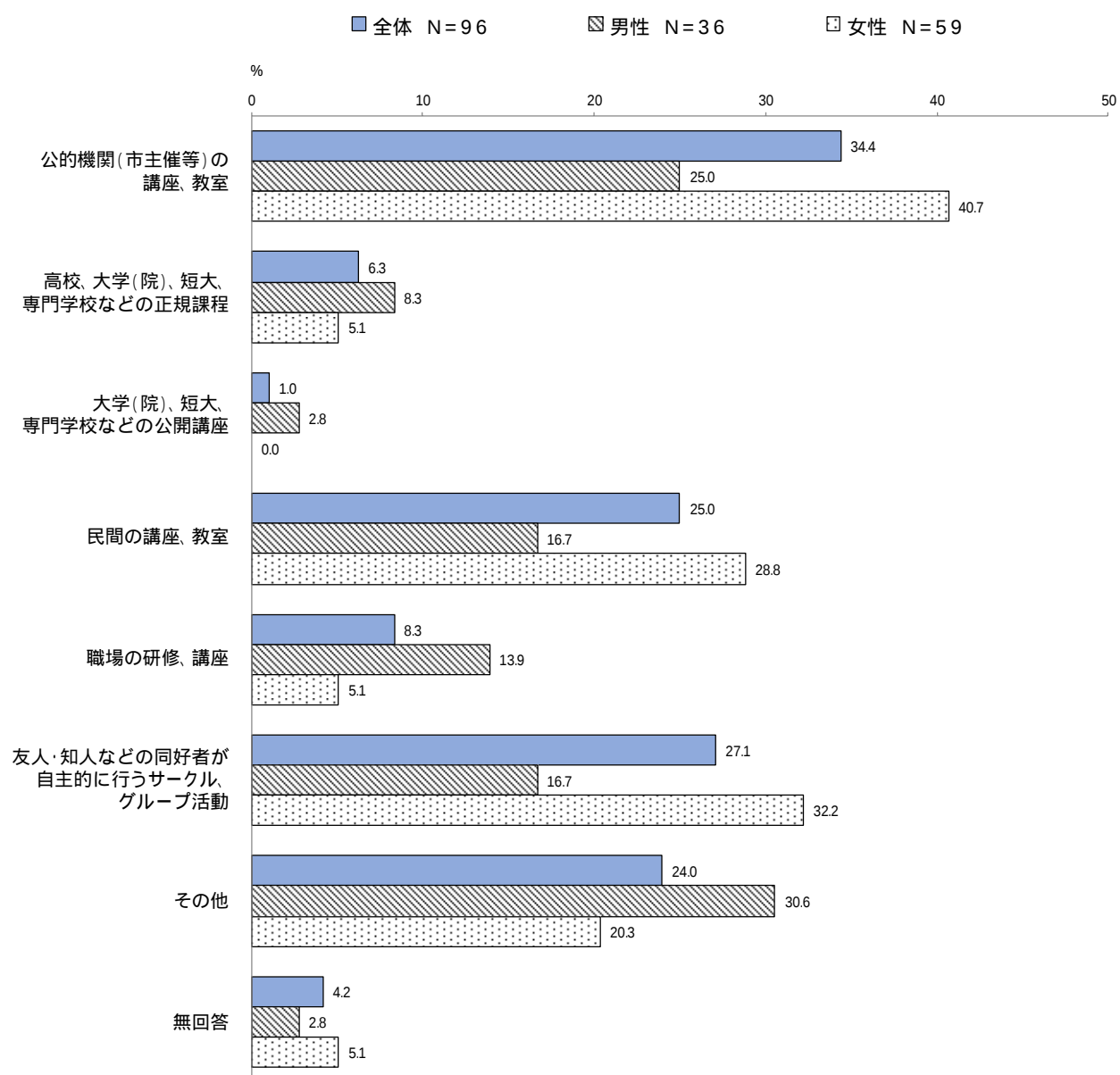
友人・知人などの同好者が自主的に行う
サークル、グループ活動

27.1%

民間の講座、教室

25.0%

全体でみると「公的機関(市主催等)の講座、教室」が最も高くなっています。性別でみると男性は「その他」30.6%（内訳は下部参照）、「公的機関(市主催等)の講座、教室」25.0%の順に高く、女性は「公的機関(市主催等)の講座、教室」40.7%、「友人・知人などの同好者が自主的に行うサークル、グループ活動」32.2%の順に高くなっています。



【その他の回答】 自宅、スポーツ施設、カフェ、病院での公開講座、寺院の講座、家庭教師、書籍やラジオ

あなたの生涯学習について

▶ 生涯学習の実施形態

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「行った」と回答

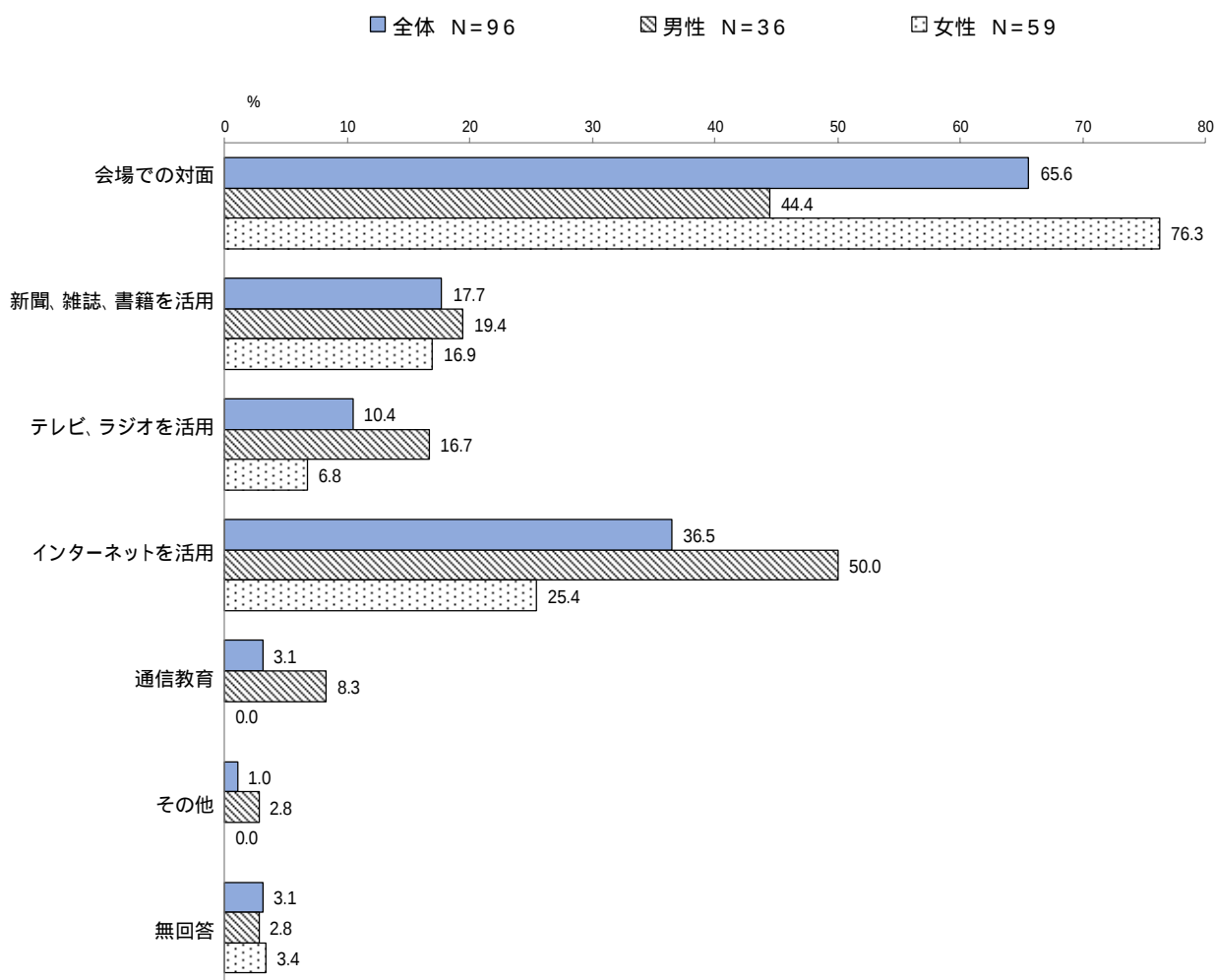
問7-4 問7-1の学習はどのような形態で行いましたか。（複数回答可）

会場での対面
65.6%

インターネットを活用
36.5%

新聞、雑誌、書籍を活用
17.7%

全体でみると、「会場での対面」が65.6%と最も高く、次いで「インターネットを活用」が36.5%となっています。性別でみると男性は「インターネットを活用」50.0%、次いで「会場での対面」44.4%となっています。女性は「会場での対面」76.3%が圧倒的に高くなっており、次いで「インターネットを活用」25.4%となっています。



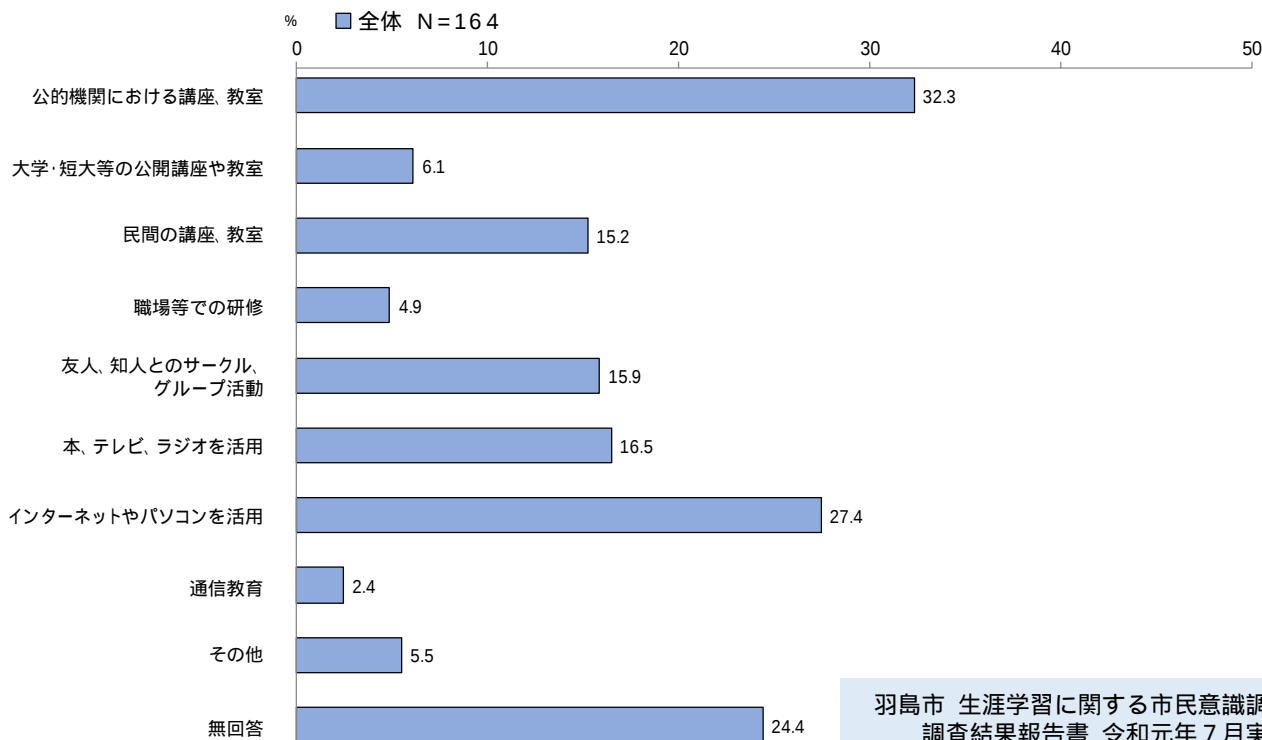
【その他の回答】 家庭教師

前回調査・全国調査との比較 ▶生涯学習の実施場所 ▶生涯学習の実施形態

学習の場の調査では今回、前回、全国いずれも「公的機関の講座、教室」が30%台となっていますが「友人とのサークル、グループ活動」は今回調査が27.1%と前回や全国調査と比べて高い割合となりました。学習形態では全国調査を見ると「インターネット」が58.7%と市の調査と比べて高くなっています。

前回調査

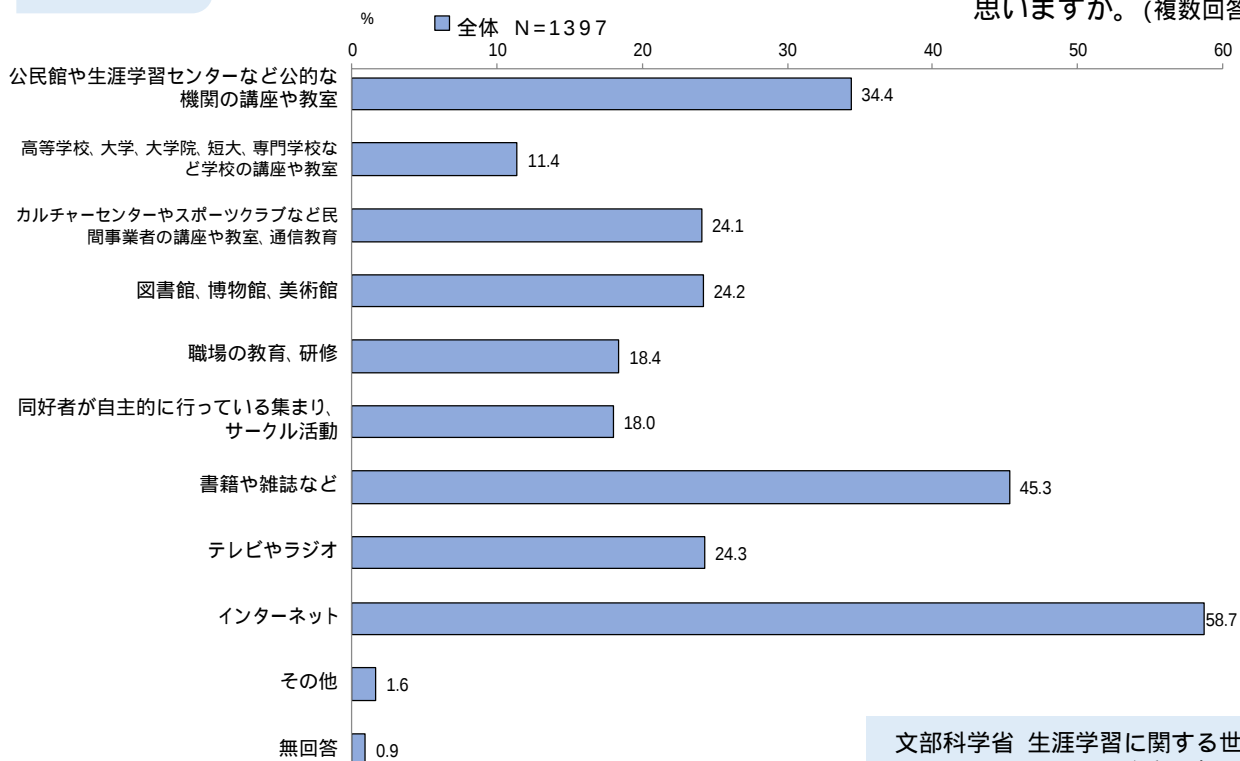
あなたが過去1年間に行った活動はどのような場所や形態で行いましたか。
また、これから行うとしたらどのような場所や形態で行いますか。（複数回答可）



羽島市 生涯学習に関する市民意識調査
調査結果報告書 令和元年7月実施

全国調査

あなたは、これから学習するとした場合、どのような場所や形態で学習したいと思いますか。（複数回答可）



文部科学省 生涯学習に関する世論調査
令和4年7月実施

あなたの生涯学習について

▶ 生涯学習を行うことで得られた良さや実感

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「行った」と回答

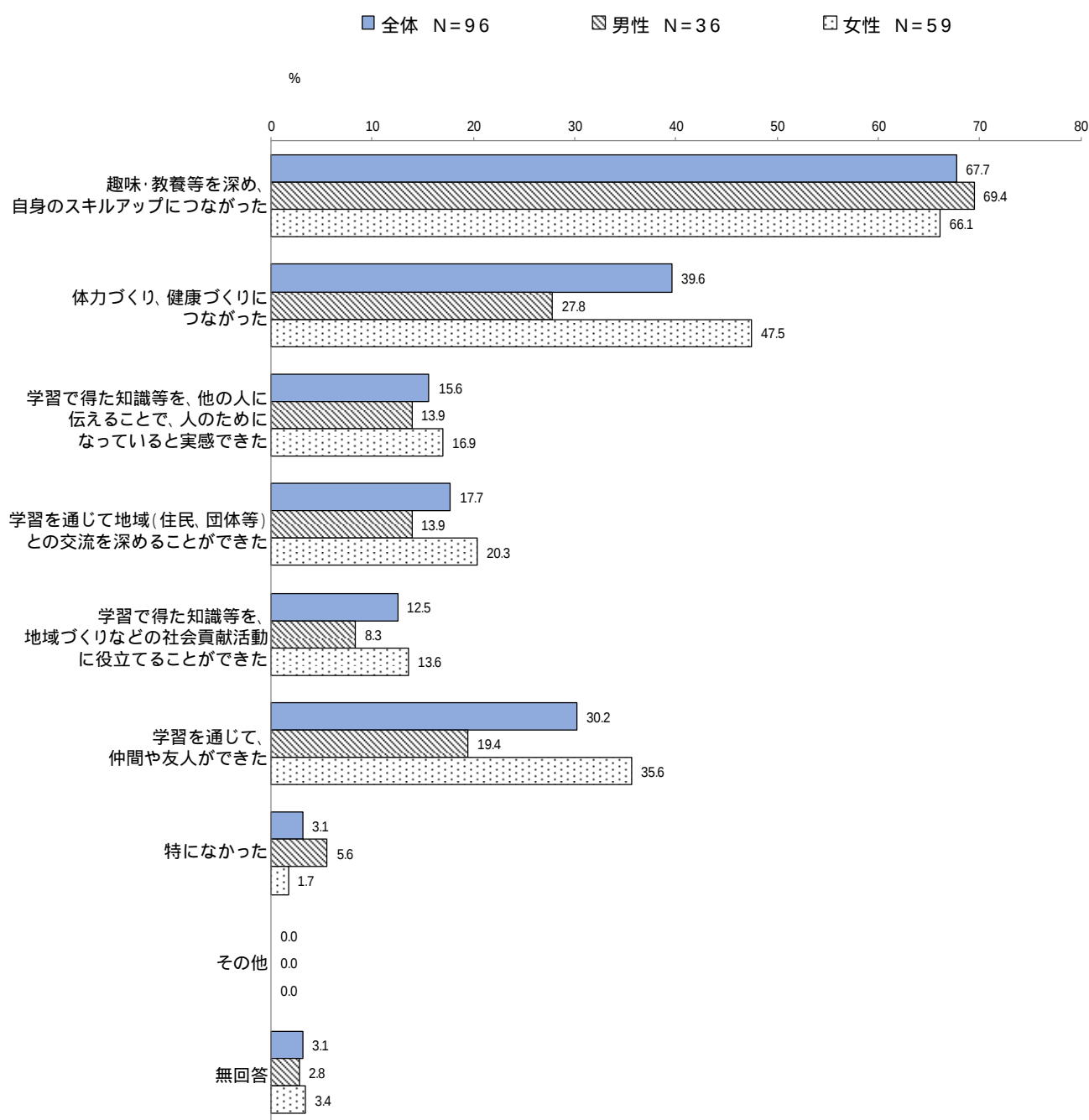
問7-5 問7-1の学習を通じてどのような良さを味わうことができましたか。（複数回答可）

趣味・教養等を深め、スキルアップにつながった
67.7%

体力づくり、健康づくりにつながった
39.6%

学習を通じて、仲間や友人ができた
30.2%

全体、性別ともに、「趣味・教養等を深めスキルアップにつながった」が最も高く、次いで「体力づくり、健康づくりにつながった」、「学習を通じて、仲間や友人ができた」が高くなっています。また「学習で得た知識等を、他の人に伝えることで、人のためになっていると実感できた」は15.6%、「学習で得た知識等を、地域づくりなどの社会貢献活動に役立てることができた」は12.5%の回答がありました。



あなたの生涯学習について

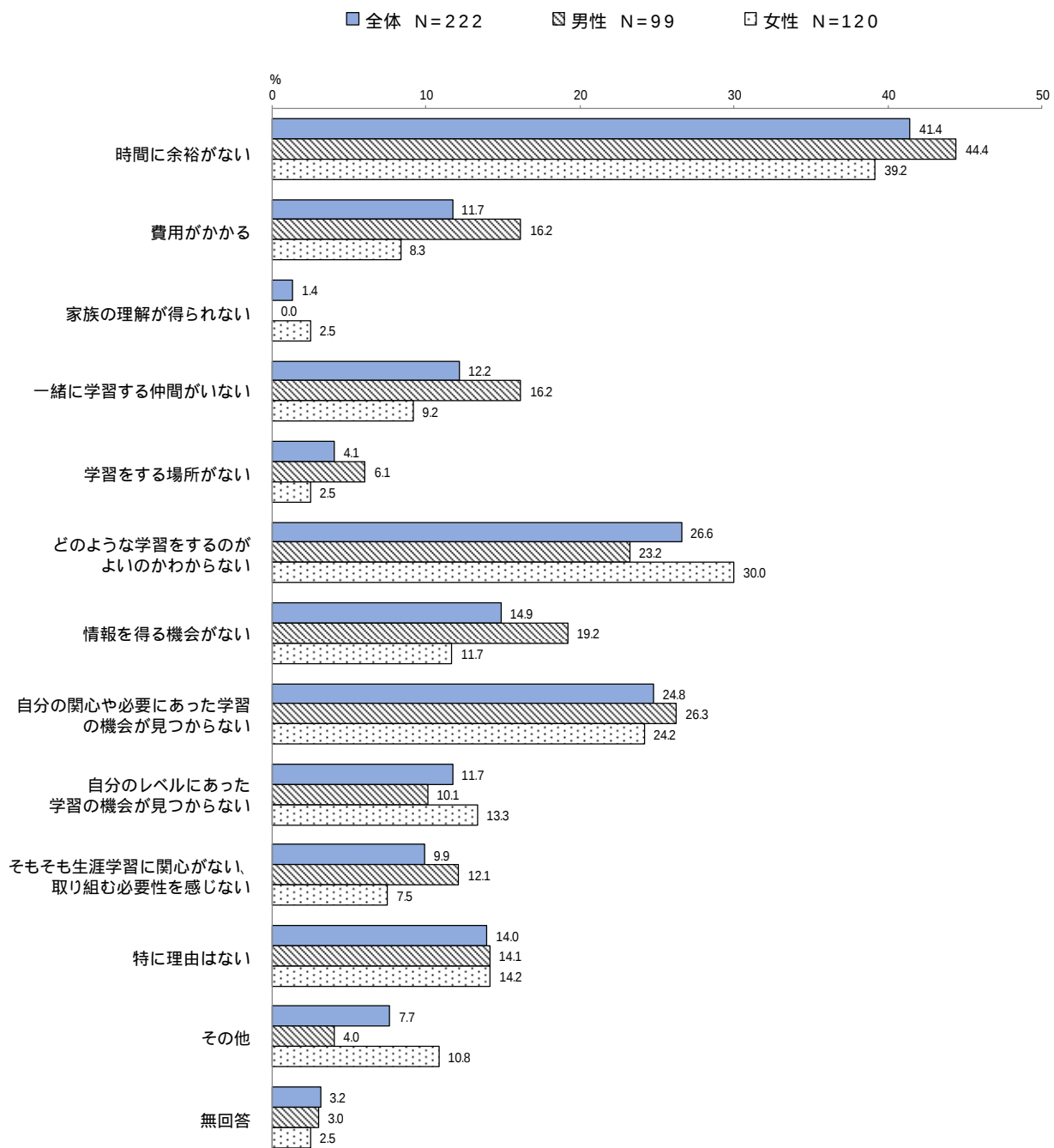
▶ 生涯学習を行っていない理由

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「**行っていない**」と回答

問 8-1 あなたが生涯学習を行っていない理由は何ですか。（複数回答可）

時間に余裕がない	どのような学習をするのがよいのかわからない	自分の関心や必要にあった学習の機会が見つからない
41.4%	26.6%	24.8%

全体、性別ともに「時間に余裕がない」が最も高くなっています。男性は「自分の関心や必要にあった学習の機会が見つからない」26.3%が続き、女性は「どのような学習をするのがよいのかわからない」30.0%が続いています。一方、「特に理由はない」や「そもそも生涯学習に関心がない、取り組む必要性を感じない」が全体、性別ともに10%前後の回答があります。



【その他の回答】 生涯学習とは何かわからないため、仕事のため、高齢のため、体調不良・入院のため、感染症が怖い、趣味が多くて増やせないため

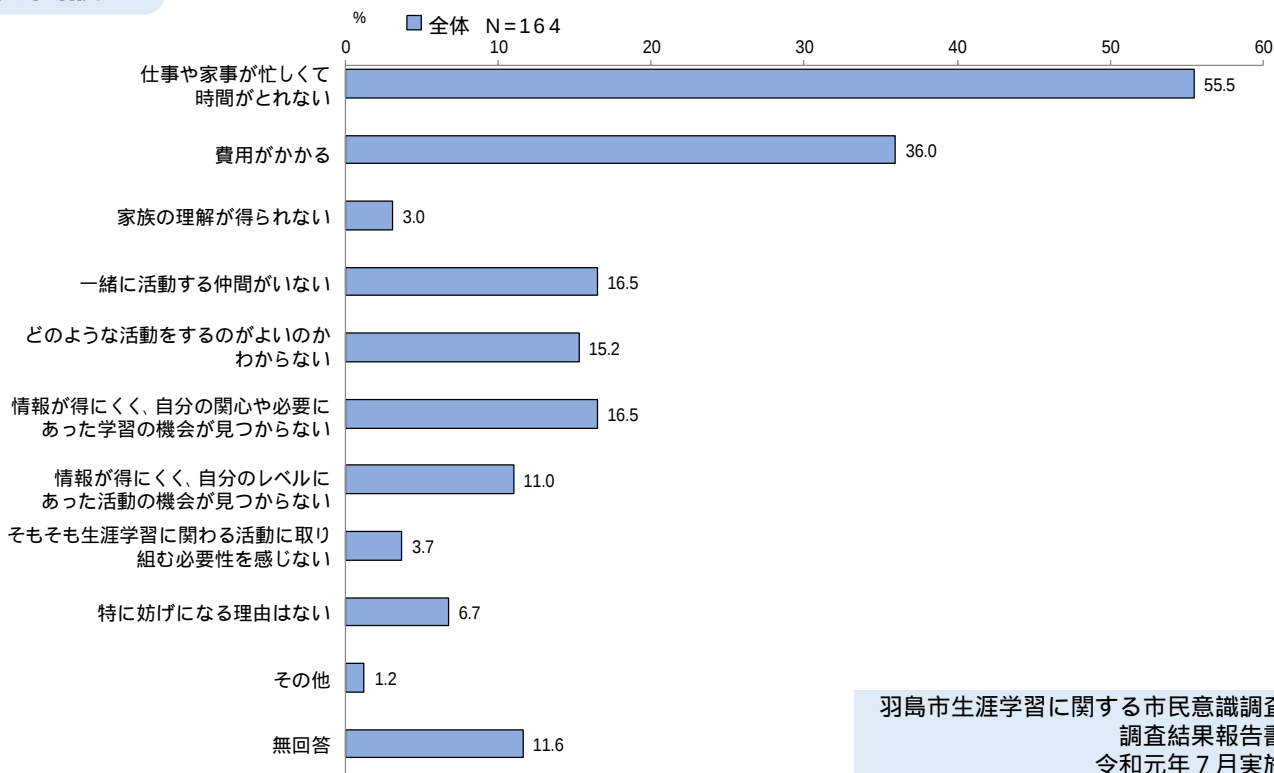
前回調査・全国調査との比較

▶ 生涯学習を行っていない理由

生涯学習の妨げと考えられるのは、今回、前回、全国の調査いずれも「時間に余裕がない」が高い割合となっています。全国調査を見ると「特に必要がない」が45.5%と高い割合となっています。

前回調査

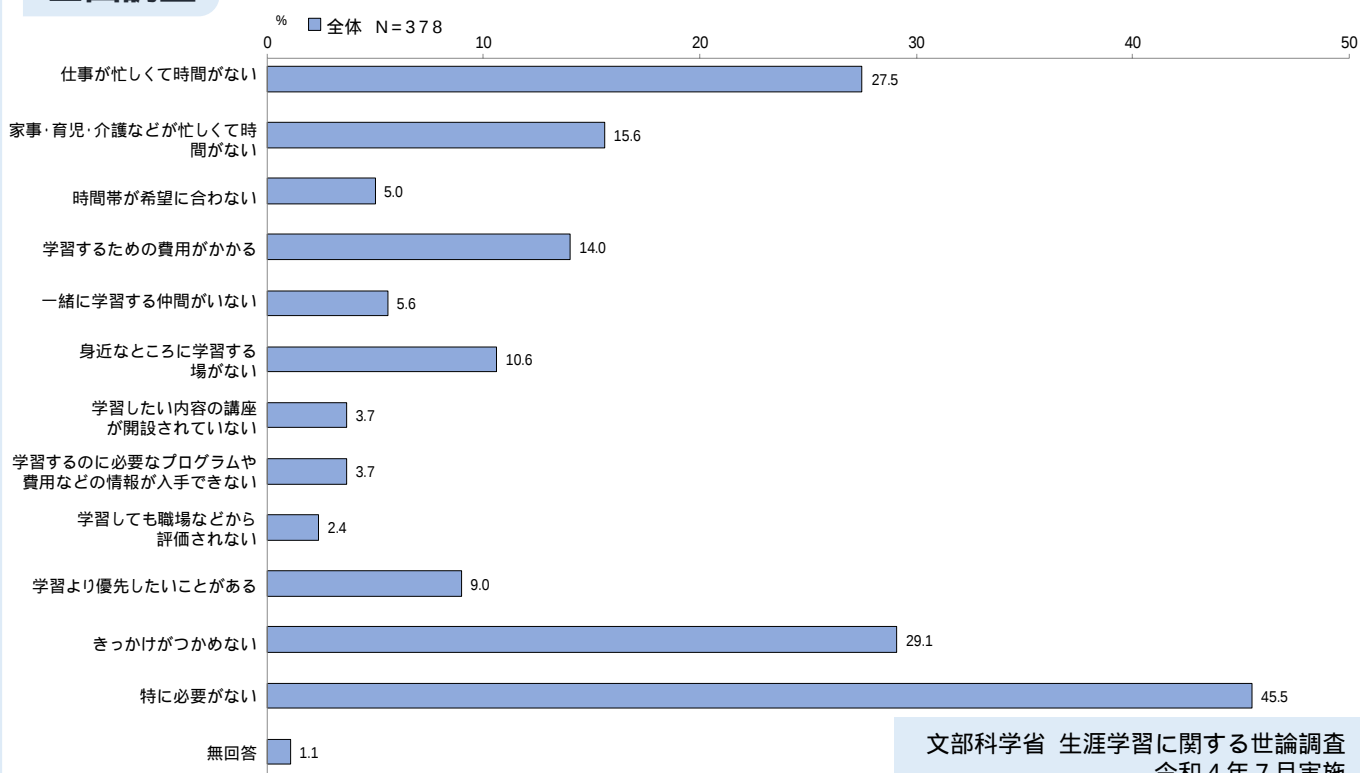
活動に取り組む際、どのようなことが妨げになると思いますか。(複数回答可)



羽島市生涯学習に関する市民意識調査
調査結果報告書
令和元年7月実施

全国調査

学習していない理由は何ですか。(複数回答可)



文部科学省 生涯学習に関する世論調査
令和4年7月実施

あなたの生涯学習について

▶ 今後学習したい・関心のある内容

問6 あなたはこの1年間くらいの間に生涯学習を行いましたかに「行っていない」と回答

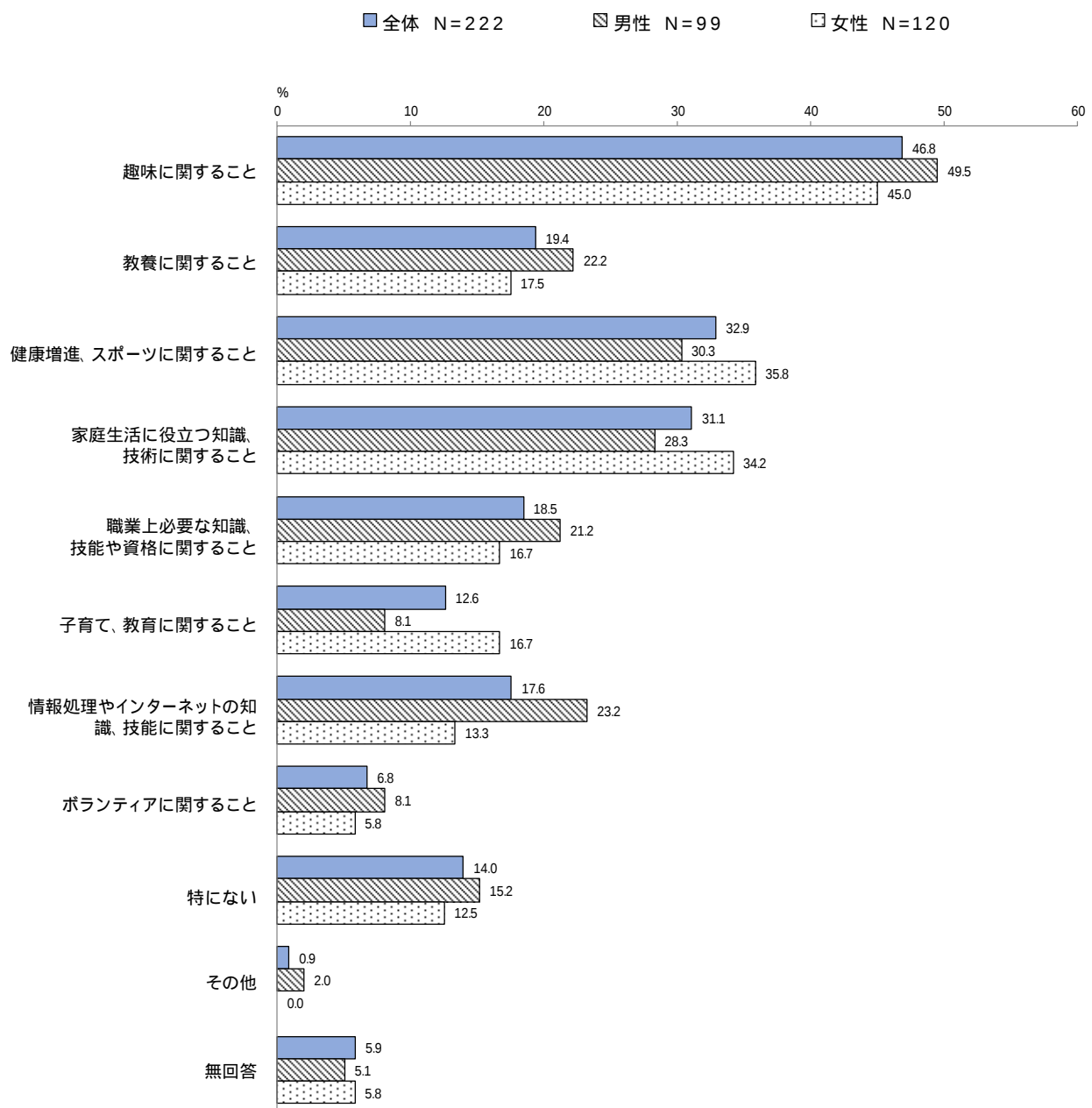
問8-2 できれば学習したい・学習してもよいと思う内容はどんなものですか。（複数回答可）

趣味に関すること
46.8%

健康増進、スポーツに関すること
32.9%

家庭生活に役立つ知識、技術に関すること
31.1%

全体、性別ともに「趣味に関すること」が最も高く、「健康増進、スポーツに関すること」、「家庭生活に役立つ知識、技術に関すること」が次に高くなっています。「職業上必要な知識、技能や資格に関すること」や「情報処理やインターネットの知識、技能に関すること」といった職業スキルに関する項目はどちらも男性が高くなる傾向にあります。



【その他の回答】 絵画、合唱、救急救命、けが病気時の応急処置法

あなたの生涯学習について

▶ 学習がしやすい時間帯

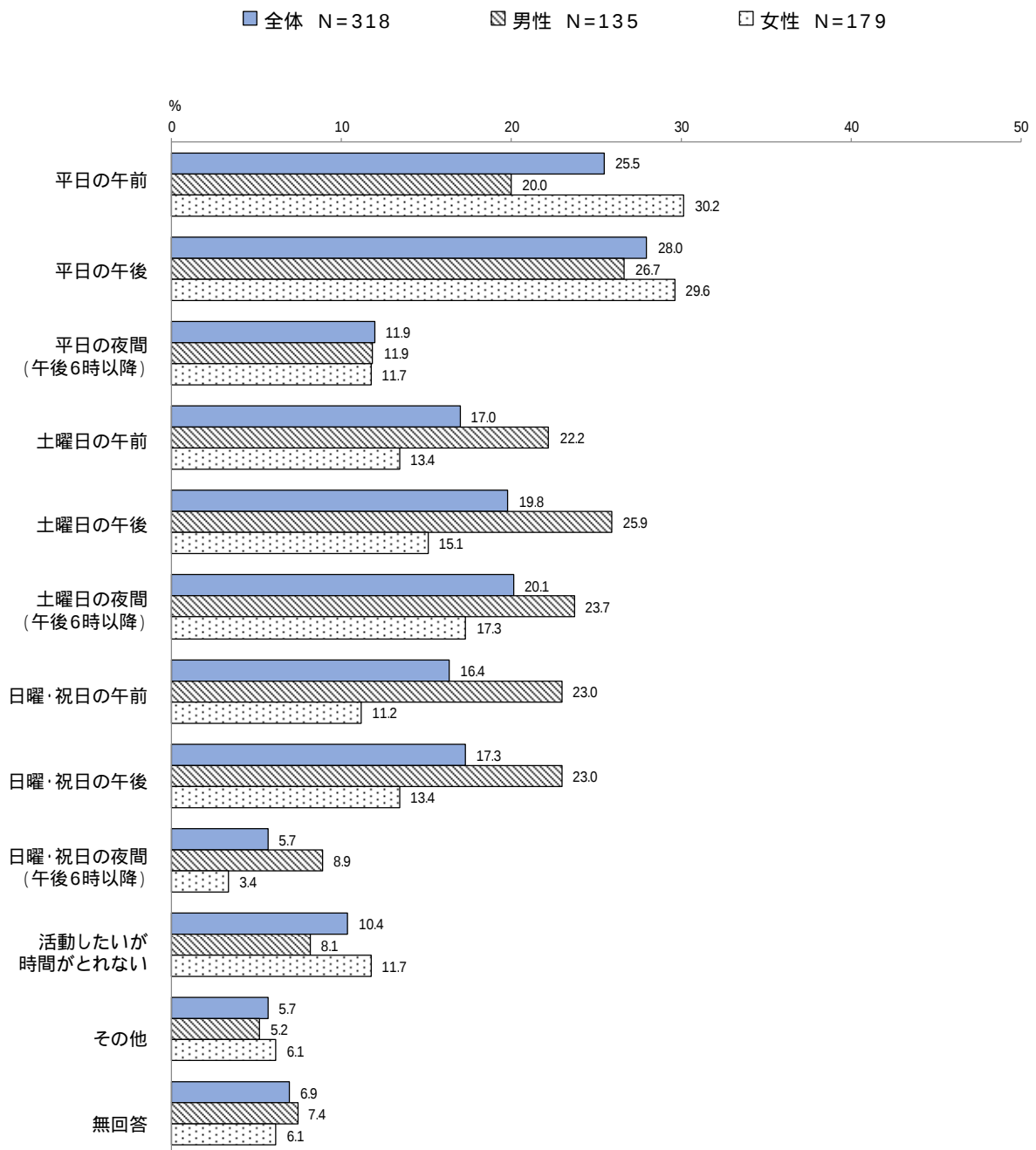
問 9 生涯学習をする場合、学習がしやすい時間帯はいつですか。（複数回答可）

平日の午後
28.0%

平日の午前
25.5%

土曜日の夜間(午後6時以降)
20.1%

全体でみると、「平日の午後」が最も高く、次いで「平日の午前」となっています。男性では「平日の午後」26.7%が最も高くなっていますが、「土曜日の午後」「土曜日の夜間(午後6時以降)」「日曜・祝日の午前」などの割合も20%台となっており、休日が学習しやすいと回答する割合が高い傾向にあります。



【その他の回答】 イレギュラーな勤務形態のため定まらない、休日の前日18時以降、不定休の休日の早朝や夜間、すきま時間、在宅時、早く就寝し夜中

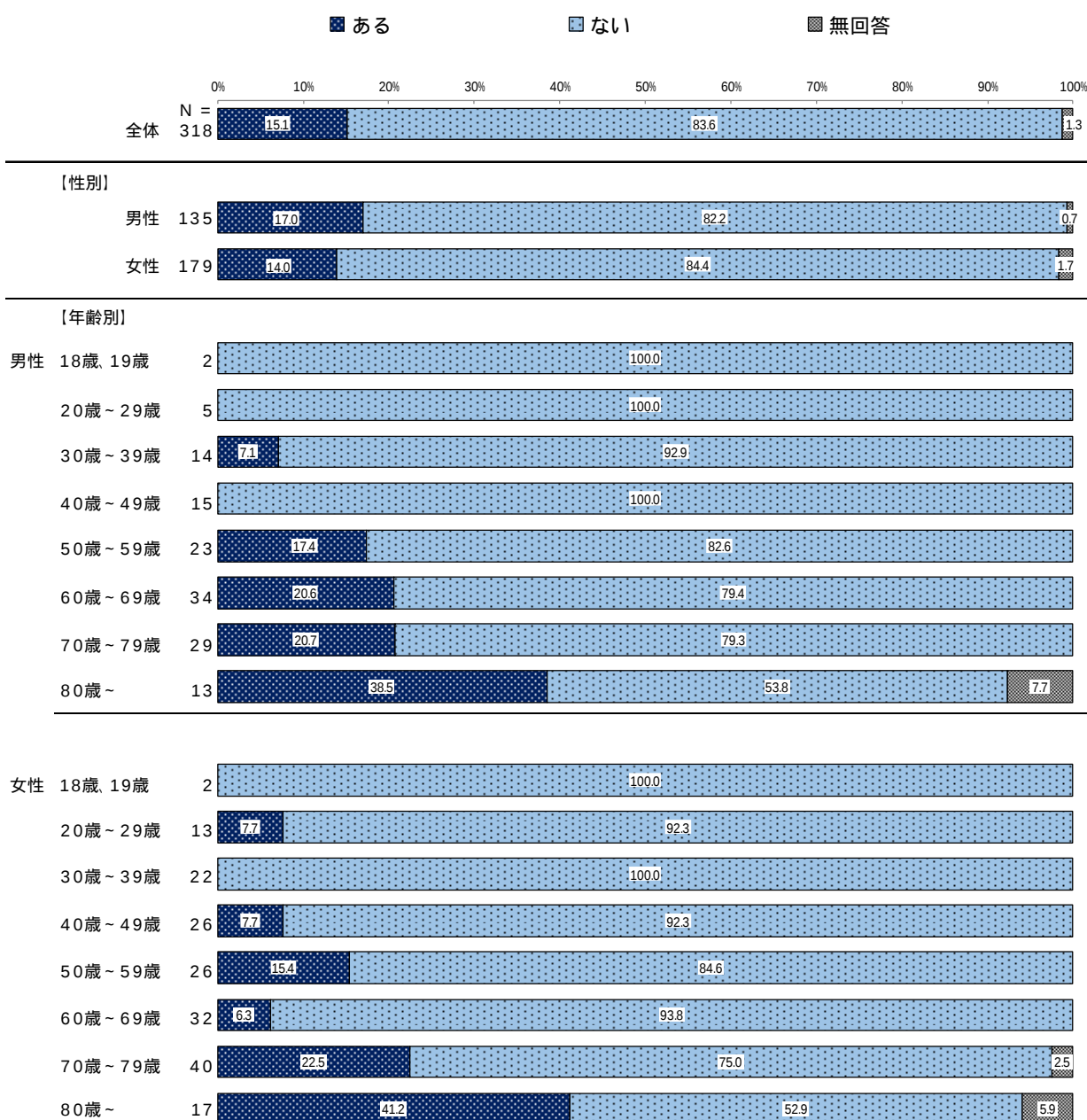
地域づくり型生涯学習について ▶「地域づくり型生涯学習」の認知度

問 10 市では、身に付けた知識や経験を地域社会に生かし、地域課題を解決する「地域づくり型生涯学習」を推進しています。あなたは、「地域づくり型生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか（回答は1つ）

ない
83.6%

ある
15.1%

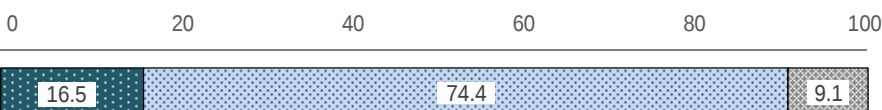
全体でみると「地域づくり型生涯学習」という言葉を聞いたことが「ある」という回答が15.1%に対し、「ない」という回答が83.6%と大きく差が開いています。年齢でみると、聞いたことが「ある」という回答の割合は、年齢が上がるとう高くなる傾向にあります。



参考

全体 N=164 %

■ある ■ない ■無回答



羽島市生涯学習に関する市民意識調査
調査結果報告書 令和元年7月実施

地域づくり型生涯学習について ▶「地域人材」の必要度

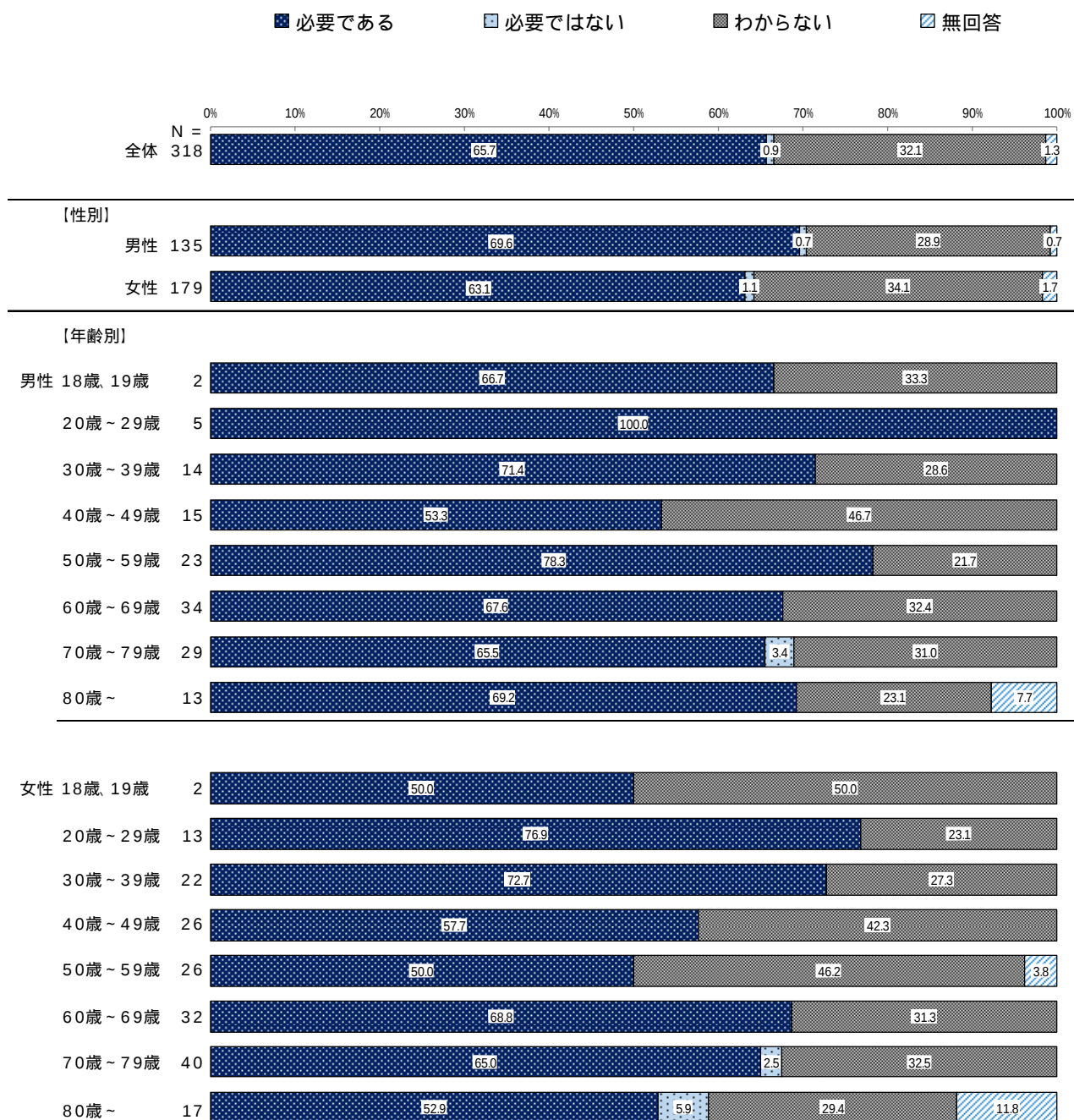
問 11 身に付けた知識や経験を地域社会に生かし、地域課題を解決する「地域人材」は、今後の地域社会に必要なだと思いますか（回答は1つ）

必要である
65.7%

わからない
32.1%

必要ではない
0.9%

全体でみると、地域人材は「必要である」が最も高くなっており、どの年齢においても半数以上が地域人材は「必要である」と答えています。一方、「わからない」が32.1%となっており、地域人材は「必要ではない」は0.9%と非常に低くなっています。



地域づくり型生涯学習について ▶ 必要な地域人材の分野

問 12 次にあげる地域課題のうち、どのような分野での地域人材が必要だと思いますか。
(回答は1つ)

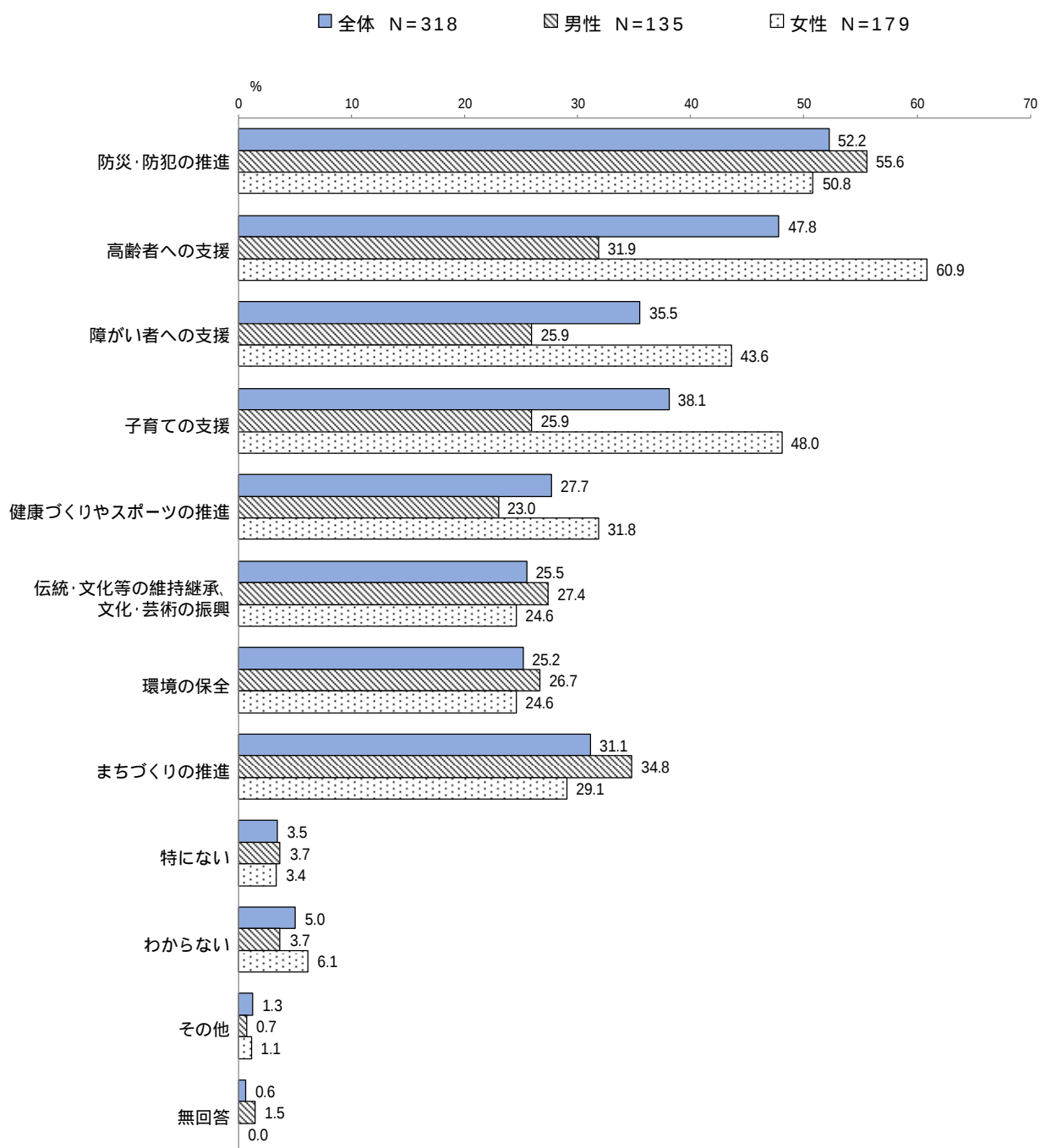
防災・防犯の推進
52.2%

高齢者への支援
47.8%

子育ての支援
38.1%

障がい者への支援
35.5%

全体でみると「防災・防犯の推進」が最も高くなっています。次いで「高齢者への支援」「子育ての支援」「障がい者への支援」といった支援に関する項目が高くなっています。一方、「まちづくりの推進」は31.1%、「健康づくりやスポーツの推進」、「伝統・文化等の維持継承、文化・芸術の振興」は20%代後半と高い傾向にあります。



【その他の回答】 農業、年齢を問わない看護・医療・福祉、認知症の方や障がい者への支援

地域づくり型生涯学習について

▶ 地域課題を解決する地域人材の有無

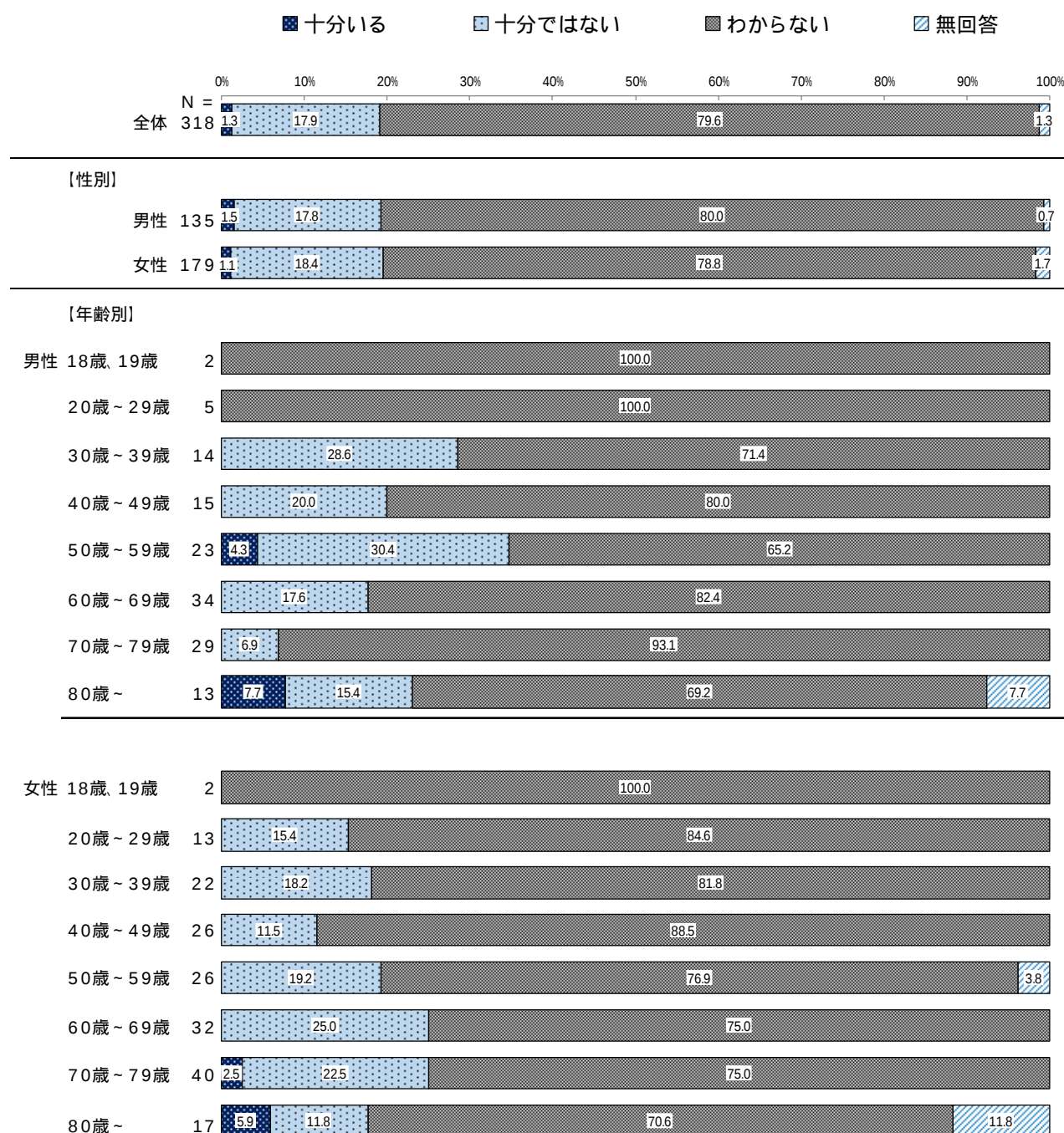
問 13 あなたがお住いの地域に、地域課題を解決するような地域人材はいますか。
(回答は1つ)

わからない
79.6%

十分ではない
17.9%

十分いる
1.3%

全体でみると「わからない」が79.6%と極めて高くなっています。地域人材は「十分いる」と答えた割合は1.3%にとどまり非常に低くなっており、「十分ではない」と答えた割合も17.9%と低くなっています。性別でみても、ほぼ同じ割合の回答となっています。



地域づくり型生涯学習について ▶ 生涯学習の成果を地域社会で生かす意欲

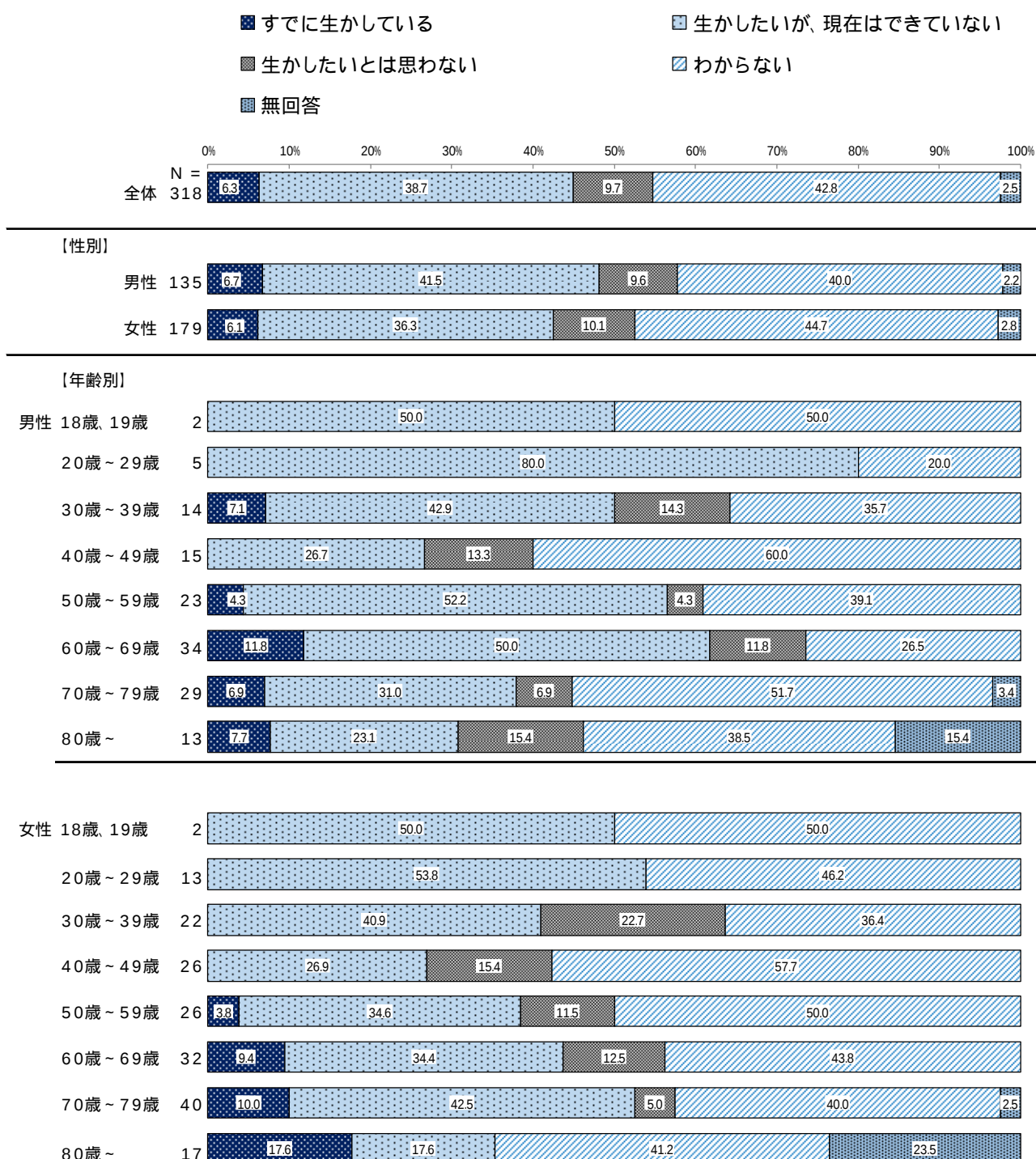
問 14 あなたは、生涯学習を通じて身に付けた知識や経験を地域活動やボランティア活動など、地域社会で生かしていきたいと思いませんか。（回答は1つ）

わからない
42.8%

生かしたいが、現在はできていない
38.7%

生かしたいとは思わない
9.7%

全体でみると「わからない」が最も高く、次いで「生かしたいが、現在はできていない」が高くなっています。「生かしたいとは思わない」は全体、性別ともに回答の割合の10%前後を占め女性30代では22.7%となっています。「すでに生かしている」は30代男性と50代以上で回答がみられますが、低い割合となっています。

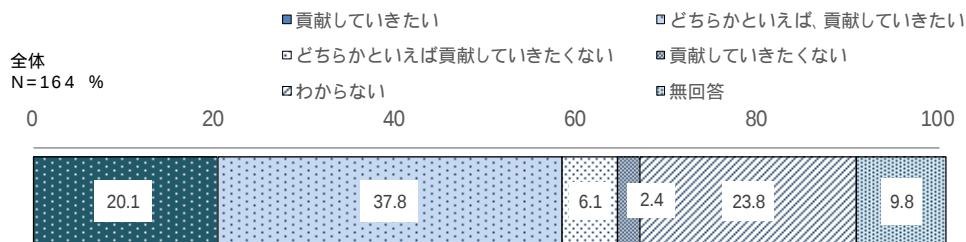


参 考

▶ 生涯学習の成果を地域社会で生かす意欲

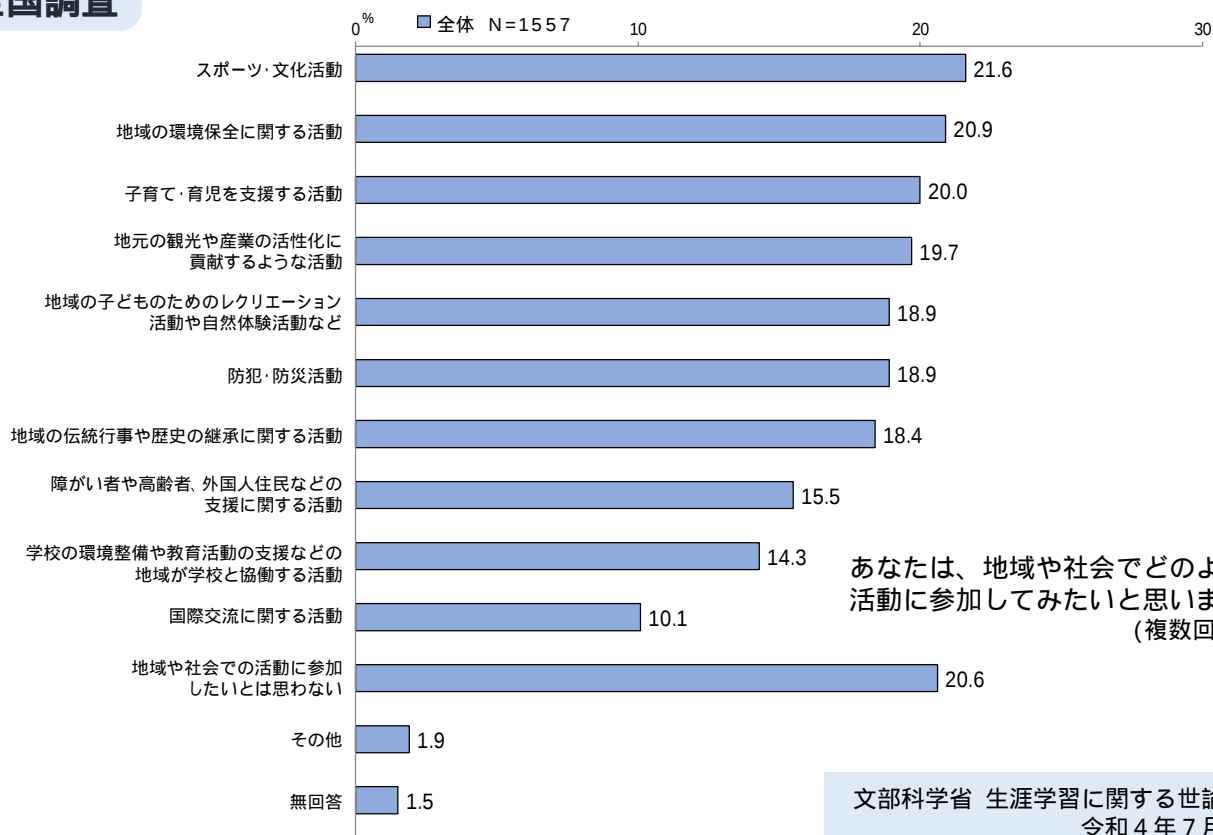
前回調査

「活動を通して身に付けた知識や経験を生かし、地域活動や学校教育活動でのボランティア活動に取り組むなど、社会に貢献していきたいと思いますか。（回答は1つ）」



羽島市 生涯学習に関する市民意識調査 調査結果報告書
令和元年7月実施

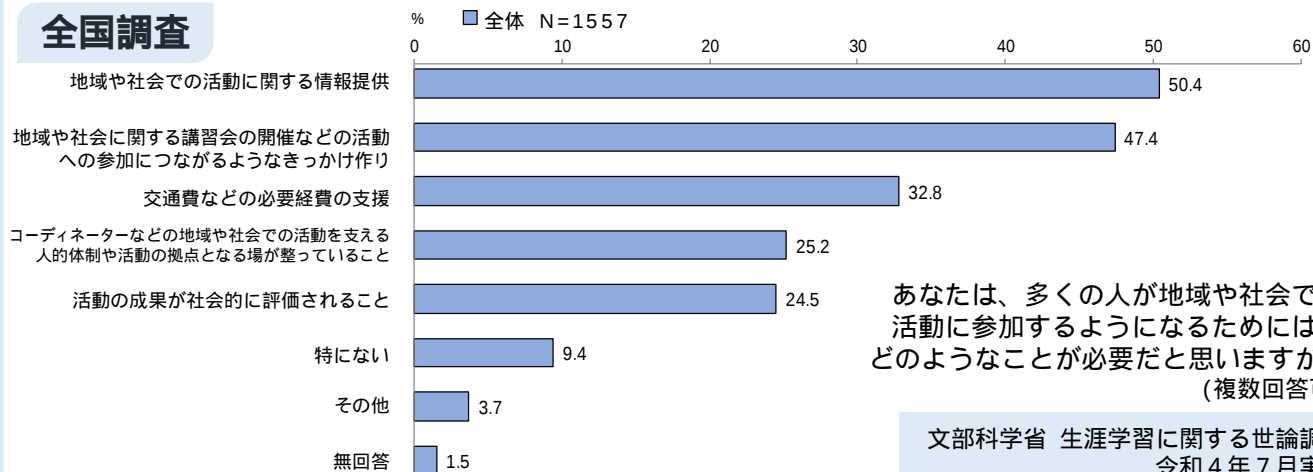
全国調査



あなたは、地域や社会でどのような活動に参加してみたいと思いますか（複数回答可）

文部科学省 生涯学習に関する世論調査
令和4年7月実施

全国調査



あなたは、多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

文部科学省 生涯学習に関する世論調査
令和4年7月実施

地域づくり型生涯学習について ▶ 生涯学習の成果を地域社会生かす具体例

問14で「すでに生かしている」と回答

問15 どのような形で生かしていますか。（複数回答可）

ボランティア活動をしている

60.0%

自治会活動に生かしている

35.0%

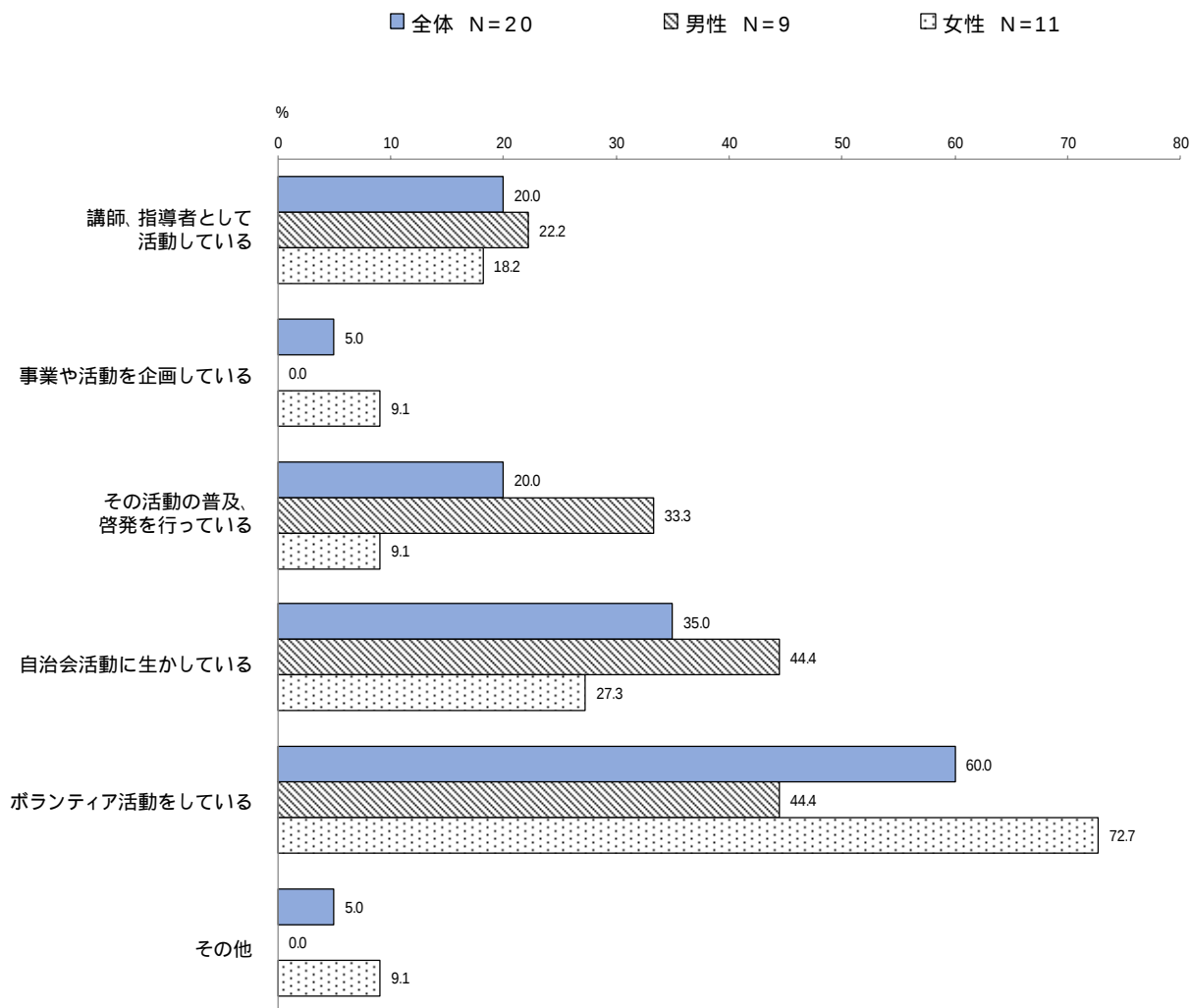
その活動の普及、啓発を行っている

20.0%

講師、指導者として活動している

20.0%

全体で見ると「ボランティア活動をしている」が最も高くなっており、次いで「自治会活動に生かしている」となっています。性別で見ると男性は「自治会活動に生かしている」と「ボランティア活動をしている」が44.4%と高く、次いで「その活動の普及、啓発を行っている」33.3%が高くなっています。女性は「ボランティア活動をしている」72.7%が極めて高くなっています。



【その他の回答】 習いたい人は自ら習いに来るので広めたいと思わない

地域づくり型生涯学習について

▶ 生涯学習の成果を地域社会で生かす際の課題や困難

問14で「1.すでに生かしている」「2.生かしたいが、現在できていない」と回答

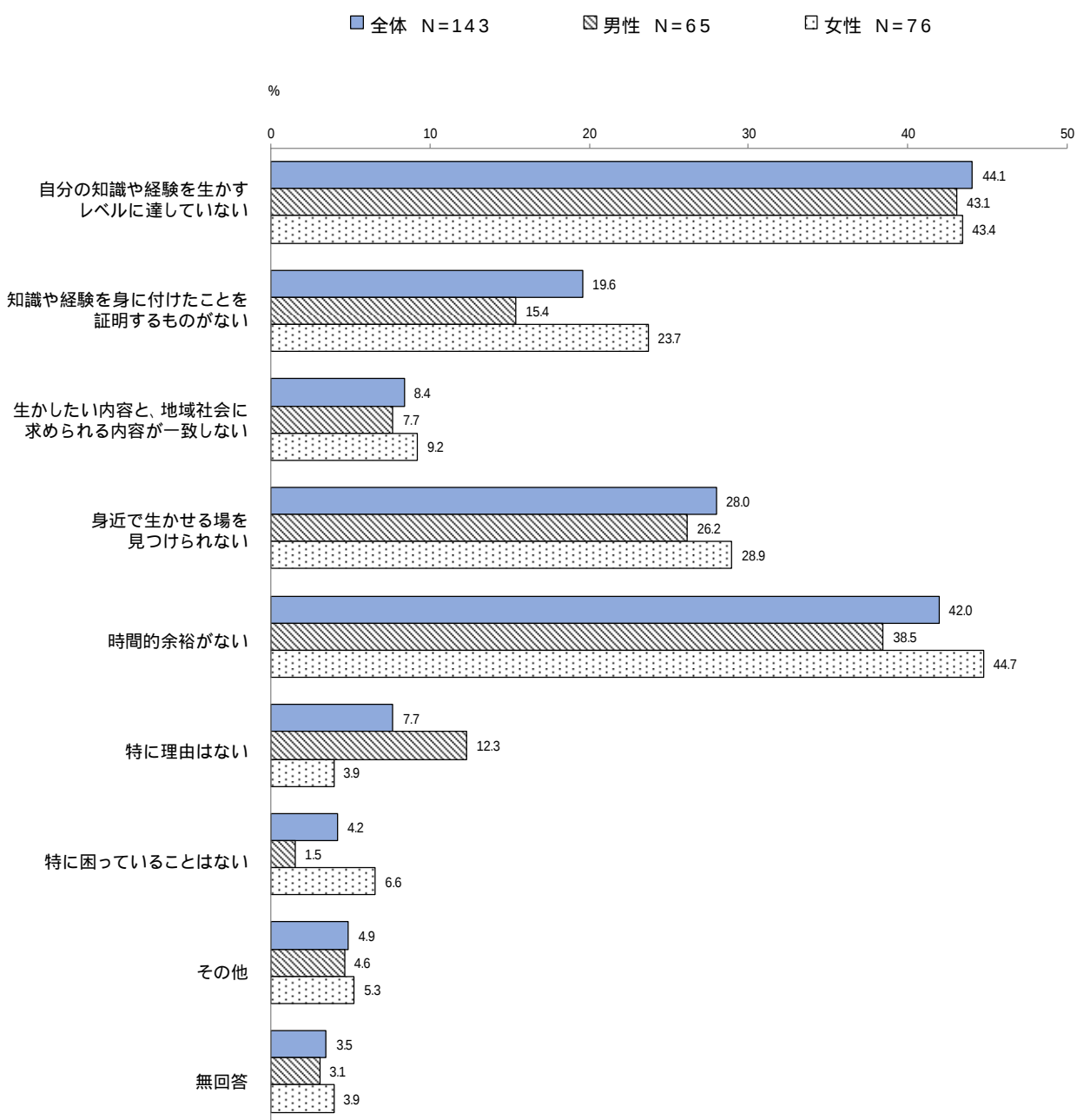
問 16 あなたが、生涯学習を通じて身に付けた知識や経験を地域社会で生かすにあたってお困りの点や、生かしたいのにそれができない理由は何ですか。（複数回答可）

自分の知識や経験を生かす
レベルに達していない
44.1%

時間的余裕がない
42.0%

身近で生かせる場を見つけられない
28.0%

全体でみると「自分の知識や経験を生かすレベルに達していない」が最も高く、次いで「時間的余裕がない」となっています。性別でみてもどちらも40%前後と高い割合となっています。また「身近で生かせる場を見つけられない」も全体、性別ともに20%台後半となっており、高い割合となっています。



【その他の回答】 高齢や病気のため、スタッフ不足、マッチング機能がない、場所が遠い



自由意見

自由意見

自由意見欄へ記載いただいたご意見の中から、抜粋・要約して掲載したものです。

生涯学習の推進

内 容	年齢・性別
若い世代に対して生涯学習の説明を行ってほしい。	20代・女性
常に学び続けたいと思っている。子育て中のため子育てや生活について学んでいる。羽島市民が利用できる子どもの支援センターを増やしてほしい。	20代・女性
図書館の自習室を長い時間使えるようにして欲しい。充電環境やパソコンの使用、飲食しつつ話し合える場があると交流の場になると思う。	20代・女性
「生涯学習都市づくり5ヶ年計画」を市民は知らないと思う。PDCAサイクルはあるか。計画があっても施策が市民へ共有されなければ意味がない。	30代・男性
生涯学習とは何か分からない。「生涯学習」「生涯学習に関する羽島市の取り組み」をアンケート結果の公表時に公開していただけるとありがたい。	30代・女性
子育て中であり、子どもと一緒に学習したいと考えている。親子で学ぶ場があれば良いと思うが後回しになっている。イベントなど楽しく学べる場が理想。習い事(そろばん・習字など)を無料で学ぶ場があればありがたい。	30代・女性
平日、休日問わず子連れで参加できるものがあると良いと思う。	30代・女性
仕事などで他の地域で活動されていた人に羽島市のまちづくりについて考えなどを聞き、より良いまちを作れるようにして行ってほしい。	40代・男性
ビジネスに適して、様々な人材や若い人が活躍できる地域こそ生涯学習が生きてくる。そうでないといつまでも一部の人の生涯学習となり広まらない。	40代・男性
昨今の食糧問題から農業の今後に興味がある。高齢化で耕作放棄地が更に増え地域環境も変化していくなか、土地の市民農園や市民野菜作り教室などへの活用で、アパート住まいなど土にふれる機会のない方への学びの場などがあればよい。	40代・女性
図書館内がせまく通路の幅も余裕がないので窮屈で居心地が悪く感じる。本のラインナップには満足しているので、館内レイアウトを良くしてほしい。	40代・女性
何のために学ぶのか、目的からゴールまで一貫していると取り組む意欲につながるのではないかと。「資格」は目に見えるもので自立にもつながると思うので、取得に向けた学習環境があるとありがたい。	40代・未回答
高齢者層のIT関係の知識を高めていくことが必要である。	50代・男性
生涯学習は高齢者のイメージがあり若い世代は参加しにくい。青年～中年世代が参加しやすい講座の開設とともにイメージ戦略が必要。	50代・男性
育児を終えてから自分の為に時間を使い学びたいと思う講座があまりない。年代別に興味のあるような講座があると受講したいと思うようになる。	50代・女性
生涯学習はあまり興味がなく情報収集しておらず、深く考えてこなかった。様々な講座(録画やライブ)をインターネットで受講する環境があれば参加しやすくなる。他自治体の実績も参考にして、目を引くような広報活動やPR活動、イベント開催などで市民の認知度を上げ、興味を引く施策も必要。	60代・男性

自由意見

生涯学習の推進（続き）

内 容	年齢・性別
地域の現状や自分の生活状況により学習に対し積極的に取り組むことのできない方もおられるので、多様な対応にて学習の計画を作してほしい。	60代・男性
図書館でインターネット環境を整えてほしい。	60代・男性
ボランティアを紹介ができる場があれば、もっと多くの人がそれぞれのスキルを生かしたボランティアやサークルに参加できると思う。	60代・女性
近所にひとり暮らしの高齢者が多く閉じこもりがちの方もある。高齢に限らず体を動かしたい方は多い。講座に参加するにも交通面や費用の負担、時間がないなど難しい場合も多い。フレイル予防のためにも、自宅で簡単にできる体操などのチラシ配布やネット配信など、何かできないものか。	60代・女性
学習することに充実感があり生きがいになる。送迎付き講座があれば参加者が増えると思う。	70代・女性

地域づくり型生涯学習

内 容	年齢・性別
地域づくり型生涯学習という言葉を知ったが、よい取り組みだと思うので、推進していただきたい。	40代・男性
生涯学習は個人的なものであると思っていたため「地域づくり型」を推進することで誰かの役に立たなければ意味がないのかと一気に色あせて見える。地域活動やボランティアなど無償を求めず正式に講師として依頼するなど対価を払う前提で進めてほしい。	40代・女性
生涯学習を行いながら地域社会のコミュニケーションを取っていく事が、今後必要なことで、人のつながりが第1の目標だと感じる。	60代・男性
平均寿命が長くなり退職後も社会貢献できる人材は多い。市の人材バンクなどを作り活躍の場を紹介すると良い。学ぶ教える、双方の生きがいにつながる。	60代・女性
生涯学習の有意性は理解できる。専門知識を持つ方へのプライバシー配慮を行った上で自治体のマンバンク登録を行うことができれば、指導員やボランティアを広く確保できるのではないかな。	70代・男性
人材が足りない。若い方は仕事で忙しく、指導者はみな高齢である。	70代・女性
講師・指導者・学識経験者といっても素養に難がある方もいる。指導者のレベルもよく見て取り組んでほしい。	70代・女性
講座を受講し修了証を得ても、生かせる組織作りがなされていないため、活用できていない人が多い。生涯学習は生涯学習ととらえている。仲間を作りながら楽しく学びたい。高齢者の居場所が見つけられると良い。	70代・女性

自由意見

生涯学習全般

内 容	年齢・性別
あったらいいなと思うが、時間もお金も気持ちも余裕はない。高齢者の孤立防止には役に立つと思う。	30代・女性
学び直しをしてみたいと思うが、なかなか行動に移せていない。時間を有効に使い、生活に張りが出る学習をしてみたいと思っている。	40代・女性
生涯学習と聞いて、どういった学習をするのか理解できていない。まずは知ることからだと思った。	50代・男性
自分の興味に合う講座等があり時間が合えばすぐにでも参加したい。	50代・男性
地域になじみたいが、勇気や一步を踏み出せない。また、身近に話せる人がいないので参加しても浮いてしまいそう。	50代・男性
健康で自分が楽しいと思える生活が出来ていれば、いいのではないかと思う。	50代・女性
60代を過ぎ、その後どう生きるか？これこそが生涯学習かと感じる。	60代・男性
両親の介護と仕事に追われて学習する時間が取れない。介護施設の受け入れが充実していれば多少余裕ができると思う。	60代・男性
生活に余裕がなく自分の事でいっぱい、地域の事は二の次である。	60代・男性
市町村では様々な取り組みが行われていると思うが、必要とする人に伝わっているか把握することはなかなか難しい。地域へアンテナを張り、情報収集に取り込んでいきたいと思っている。	60代・女性
学習は自分で考え自分で生活の中に見つけるものであり、市や他の人から用意してもらうものではない。自分の日常生活の中でコミュニケーションをとって学び積み重ねるもので、毎日生きている中から学んでいくものである。	70代・男性
70歳になるまでの約10年間は生涯学習として体操教室に通ったが、もう体力的に意欲が出ない。しかし、その時に習った体操は生かされて現在の健康があるのだと、学習の大切さは身をもって感じている。	70代・女性
情報がないのでわからない。受身でなく自分で進んでいく必要性を感じる。	80代・男性
高齢になり運動する場所などがわからない。時々広報紙で情報を得ている。	80代・女性

生涯学習都市づくり5か年計画 令和8年度～令和12年度

発行年月 令和8年 月

発行・編集 羽島市市民協働部 生涯学習課

〒501-6292

羽島市竹鼻町55番地

電 話 058-392-1111

F A X 058-394-0025

E-mail gakushu@city.hashima.lg.jp